令和6年6月7日

1. 出席議員

議長	吉川里己	副議長	松尾初秋
1番	古賀珠理	2番	山崎健
3番	毛利清彦	4番	中山稔
5番	江口康成	6番	吉原新司
7番	朝長勇	8番	豊村貴司
9番	上田雄一	10番	古川盛義
11番	山口幸二	12番	池田大生
13番	石橋敏伸	15番	末藤正幸
17番	山口昌宏	18番	牟田勝浩
19番	杉原豊喜	20番	江原一雄

2. 欠席議員

なし

3. 本会議に出席した事務局職員

事務局長	江上新治
次長	奥幹久
議事係長	草場章徳
議事係員	佐々野理子
総務係員	笠原良子

4. 地方自治法第121条により出席した者

市		長	小	松		政
副	市	長	北	川	政	次
教	育	長	松	尾	文	雄
総	務	部	秋	月	義	則
総	務	部	黒	尾	聖	洋
企	画	部	松	尾	謙	一
企	画	部	山	北		太
営	業	部	山	崎	正	和
営	業	部	佐	々	木	征
福	祉	部	後	藤	英	明
福	祉	部	馬	場	真	嗣
こ	ど	も	古	賀	龍	一
こ	ど	も	野	口	幸	郎
ま	ち	づ	庭	木		未
ま	ち	づ	弦	卷	一	淳
総	務	課	古	田	香	寿
企	画	政	小	柳	真	代
財	政	課	藤	井	喜	一
		長				友

議 事 日 程 第 2 号

6月7日（金）9時開議

日程第1 市政事務に対する一般質問

令和6年6月武雄市議会定例会一般質問通告書

順番	議 員 名	質 問 要 旨
1	6 吉原新司	1. 市政について 1) 武雄市の知名度アップについて 2) 武雄温泉駅南口駅前広場について 3) 治水対策について
2	8 豊村貴司	1. 大学設置について 2. 福祉政策について 1) 重層的支援体制整備事業 2) 高齢者等の行政手続き 3. 人口減少対策について
3	7 朝長 勇	1. 官民一体型学校の今後について 2. コロナワクチン臨時接種終了後の対応について 3. 地方自治法の改正について 4. 地球温暖化対策・再生可能エネルギーについて
4	18 牟田勝浩	1. 政策の手順について 2. 周辺部対策 3. 防災について 4. 商工観光について

開 議 9時

○議長（吉川里己君）

皆さんおはようございます。休会前に引き続き本日の会議を開きます。

日程に基づき、市政事務に対する一般質問を開始いたします。

一般質問は、12名の議員から37項目の質問通告がなされております。

質問の方法、時間につきましては、議会運営委員長の報告のとおりでございます。

議事の進行につきましては、特に御協力をお願いいたします。

特に提出議案につきましては、所管の常任委員会へ付託の上、審査することを控えておりますので、その点には十分注意をして質問をお願いいたします。

また、執行部の答弁につきましても、簡潔で的確な答弁をお願いいたします。

それでは、最初に6番吉原議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

（全般モニター使用）おはようございます。ただいま議長から登壇の許可をいただきましたので、6番吉原新司、令和6年6月定例会一般質問の初日目、トップバッターとして始めさせていただきます。

令和6年もはや半年が過ぎようとしております。今年は元旦から能登半島を襲った大地震に始まり、航空機事故、そして各地でも地震が頻発しております。

ここ武雄市において、やはり心配するのは豪雨災害です。

梅雨入りも間近なようです。令和元年、3年と、豪雨災害で被災された方々は、今年は大丈夫だろうかと気象情報に敏感になられておられることと思います。

災害なく、武雄市がますます発展することをテーマに進めていきたいと思っております。

今回の一般質問は市政についてということで、1つ目に、武雄市の知名度アップについて、2つ目に、武雄温泉駅南口駅前広場について、3つ目に、治水対策についてです。

早速、1つ目の、武雄市の知名度アップについてという質問に入ります。

周辺市町の方々と、最近よく言われるのが、武雄はよかね、新幹線は来たし、今度は大学もでくっとやろ。うちのまちはさびれる一方よ。そんな言葉をかけられます。

確かに、交流人口の増加は感じております。しかし、人口減少、高齢化、少子化がストップをしているわけではありません。

まだまだいろんな取組を重ね、武雄に住みたい、武雄で働きたい、武雄が大好きと感じてもらえるようなまちへと進化していく必要があると思っております。

昨年の12月議会一般質問で申しましたが、令和8年3月1日で合併20周年の節目を迎えることとなります。そこも視野に、誰もが認める西九州のハブ都市を目指し、武雄の魅力を前面に出して、未来へつなげていかなければならないと思っております。

そのためには、次の一手、新たな一手を常に準備しておく必要があると考えます。

西九州新幹線がどのようなルートで新鳥栖につながるかは分かりませんが、つながったときに単なる通過駅にならないためにも、先を見据えた取組が必要であると思っております。そのようなことから今後取り組んでみてはどうか、いや、取り組むべきではないかという提案も含め、幾つか質問をしてきたいと思っております。

武雄といえば温泉、楼門、大楠、焼き物、御船山、黒髪山、武雄神社、黒髪神社などなど、観光に訪れる方は思われているのではないのでしょうか。

違った印象、新たな印象を持ってもらうことも必要ではないかと思ひます。

ほかに武雄の誇れるものは何か、それは蘭学です。

武雄といえは蘭学のまちと答えてくださる方が何人おられるでしょう。

皆さんは、武雄が蘭学に並々ならぬ執着を持って学んだという事実、歴史を御存じであると思ひますが、そのことを全国に強く発信、アピールすべきであると思ひます。

武雄市図書館・歴史資料館において企画展などを行われておりますが、全国的に見れば、武雄が蘭学と深い関わりを持っていることを御存じの方が少ないと感じております。

そのようなことから、武雄の蘭学についていろいろと調べておりましたら、モニターに出してあります、重要文化財武雄鍋島家洋学関係資料保存活用計画というものを見つけました。110 ページにもわたる計画書のようにです。

このような計画書があることをあまり存じておりませんでした。

この計画書の中に、私が言おうとしていることに近い部分が入っております。

まず、この重要文化財武雄鍋島家洋学関係資料保存活用計画の大まかな考え方と、現時点における進捗状況など説明いただければと思ひます。

○議長（吉川里己君）

野口こども教育部理事

○野口こども教育部理事〔登壇〕

おはようございます。武雄鍋島家洋学関係資料保存活用計画書は令和4年10月に策定しております。資料の適切な保存管理を行い、さらに洋学と蘭学に親しめるような事業を展開し、本市のまちづくりに活用していくことを目的としています。

具体的な内容としては、保存の面では、資料の管理台帳の整備や計画的な保存、修理を進めていきます。公開、活用の面では、昨年度に歴史資料館のホームページをリニューアルしています。また、文化財ビデオの放映や出前講座、蘭学に関する博物館との連携や、観光と連携した企画展の開催など、事業を進めていきます。

○議長（吉川里己君）

6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

ありがとうございます。

進めていきますやっただすよね、進めておりますと言ってほしかったな。進めていきますということは、今からそういうことにもどんどん取り組んでいくというふうに感じます。

このモニターに出してありますが、この計画書の中の第5章に、保存活用計画という部分がございます。その基本方針に、「蘭学のまち武雄「武雄と言えは蘭学」のまちづくりを目指して」とあります。

まさに私も武雄の蘭学というのをもっと前面に出して、武雄を全国に広くアピールすべき

だと思えます。

度々企画展など開催をされておりますけれども、これは全国のほうに届いているのでしょうか。

インターネットなどで、鍋島藩、蘭学や、武雄、蘭学で検索すれば、武雄のことがいろいろと出てまいりますけれども、日本の蘭学や江戸時代、蘭学などで検索しても、武雄の蘭学のことはほとんど出てまいります。

モニターに出しております、この計画書の序章で市長は「全国から、世界から、たくさんの方に武雄市へ来ていただくためにも、「武雄鍋島家洋学関係資料」を観光の核の1つとして発信していく必要があります」と述べておられます。

私はまだまだ弱いんじゃないかというふうに感じておりますけれども、いかがでしょう。

○議長（吉川里己君）

野口こども教育部理事

○野口こども教育部理事〔登壇〕

本年度は8月に武雄鍋島家洋学関係資料国重要文化財指定10周年の企画展を開催いたします。また、資料のデジタル化を進め、ホームページにも掲載していきますので、たくさんの方に興味を持っていただければと思います。

今後もSNS等を活用して、洋学、蘭学に関する企画展などの情報をしっかり発信していきます。

○議長（吉川里己君）

6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

8月に10周年の企画展を行うということで、楽しみにしておきたいと思えます。

武雄に残されている蘭学資料、蘭学の歴史は偉大であると思えます。鍋島茂義公が武雄において進めた蘭学の学びが佐賀本藩の発展、そして戊辰戦争での戦果にもつながっております。

そこで、蘭学という言葉を使い、これまでとは違った表現で武雄をアピールできないかと考えてみました。

ずばり、蘭学の聖地武雄です。このキャッチフレーズで武雄の蘭学を全国にアピールしてみてはと思います。

この聖地という言葉、よく耳にするのではないのでしょうか。本来は宗教的な言葉のようですけれども、近年では憧れの場所や有名な場所、大切な場所という意味合いで使われております。

高校野球の聖地といえば甲子園、武道の聖地といえば日本武道館や京都の武徳殿など言われておりますけれども、日本武道館は1966年、ビートルズの来日公演をきっかけに国内外の

有名なアーティストによるコンサートが行われるようになったことでロックの聖地とも呼ばれております。そのようなことから、型にはまることなく使える言葉じゃないかと思えます。

蘭学の聖地とインターネットで検索すると、まず出てくるのは「蘭学事始」の地や江戸蘭学発祥の地として東京都中央区明石町で築地の近くの記念碑が出てまいります。次に出てくるのが蘭学通りという名前の2つの場所です。1つは兵庫県西宮市名塩、もう一つは栃木県壬生町。

蘭学の聖地自体では、どこもヒットしてまいりません。これは言ったもん勝ち、早いもの勝ちじゃないかと思えます。

武雄は蘭学の聖地を名のるにふさわしい場所であると思えます。

蘭学の聖地武雄を、新たな武雄のキャッチフレーズに加え、全国に売り込んでみてはと思えますけども、いかがお考えでしょう。

○議長（吉川里己君）

山崎営業部長

○山崎営業部長〔登壇〕

おはようございます。今年度より、武雄市歴史文化ツーリズム事業を始動しております。

文化との連携の中で、武雄の歴史という文脈から新しい魅力を掘り起こし、観光誘客につなげていきたいというふうに考えております。

その1弾として、4月には多くの観光客が訪れる武雄温泉駅の構内にアームストロング砲を設置しております。

今後、事業を磨き上げて発信していく中で、蘭学の聖地武雄がしっかりとアピールできるような効果的な表現と発信方法を考えていきます。

○議長（吉川里己君）

6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

ぜひよろしく願いいたします。

今はもう何々の聖地というのは結構多いですので、武雄もこの言葉を使ってアピールすればと思えます。

先ほど話ありましたけども、今年4月から武雄温泉駅構内にアームストロング砲の展示がなされました。モニターに出しておりますけども、前々から武雄のアームストロング砲は多くの人の目に触れてもらい、武雄の歴史の偉大さを広く知っていただきたいと考えておりましたので、とてもうれしく感じております。この展示も、蘭学の聖地武雄をアピールすることに十分つながるものと思えます。

そのアームストロング砲が使用され、全国に佐賀藩の高い軍事力を見せつけたのが、日本の近代史最大の内戦とも言われる戊辰戦争です。その戊辰戦争に武雄が深く関わっているこ

とを御存じの方が少ないように感じます。

モニターに出しております右側の絵図、左側の旗、皆さん御存じだと思いますけれども、右側の絵図は戊辰戦争において佐賀藩がアームストロング砲で攻撃している様子、左側の旗はその戊辰戦争で武雄軍が用いたとされる旗です。

そこに書かれている漢字1文字、これも武雄を売り込む一つの方法になるのではないかと思います。その漢字1文字は、武雄のタケ（※戈の下に止）ということのようです。

パソコンなどで調べても、このような漢字は出てきません。そのため、ちょっと加工して作った文字をモニターに出しておりますが、なぜ武雄のタケ（※）にこの漢字を当てたのか謎です。

この1文字の漢字ですけれども、何か由来やいわれのものがあるのか。また、勝手に使用してはいけないような権利などがあるのかお尋ねをいたします。

○議長（吉川里己君）

野口こども教育部理事

○野口こども教育部理事〔登壇〕

戊辰戦争ののぼり旗に書かれているタケ（※）の字は、文字としても使われていた時代があり、武雄城の兵士ということが分かるようにのぼり旗のデザインの一部分として書いたものと考えられます。

知的財産権などによる制約があるかについては、使用する際に調査を行う必要があります。

○議長（吉川里己君）

6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

昔はこういう漢字があったということですかね。

権利のほうはちょっと調べないと分からないという感じですかね。

もしこの漢字を自由に使用していいのであれば、武雄市として、この漢字1文字、使った取組もありなのではないかと思います。

モニターに出しております、武雄市の市章や「それ、武雄が始めます。」のように、戊辰戦争で武雄軍が用いた武雄のタケ（※）の1文字も、武雄のアピールに使えるのではないのでしょうか。

戊辰戦争での武雄軍の大活躍にあやかり、戦いに勝つとか、勝利を呼び寄せるなどの、必勝に向けた縁起のいい1文字として使えるのではないかと思います。

また、この1文字は、秋田との絆の1文字にもつながるのではないのでしょうか。

例えばということで、ちょっと横断幕や必勝うちわなどもイメージで作ってみたんですけども、このような使い方もありなのではないかと思います。

1文字の漢字で武雄を表現し、熱いエールを送る意味と、戊辰戦争において武雄軍の功績

を後世に伝えるためにも、この1文字を広く活用してはと思いますが、いかがでしょう。

○議長（吉川里己君）

山崎営業部長

○山崎営業部長〔登壇〕

今、お示しされているタケ（※）の文字につきましては、常用漢字ではないため、文字そのものに珍しさを感じてもらえると。この文字の由来を語ることで、当時の武雄、鍋島家の進撃の思いなどをストーリーとして伝えることができるのではないかとというふうに考えております。

知的財産権などの有無を調べた上で、武雄の蘭学に関する観光事業においても、パンフレットの表紙などに活用できないか今後検討していきます。

○議長（吉川里己君）

6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

執行部のほうでもやっぱり珍しいということと、あと、ストーリー性があるということを確認しておられるようではございますけれども、ほかにもいろんな使い方あると思います。

モニターに、先ほどの武雄温泉駅構内に展示されているアームストロング砲の、これの近くに、戊辰戦争で武雄軍が使用した旗の複製品でも置くとかですね、蘭学の聖地武雄へようこそといった看板を設置すれば、より一層、武雄の蘭学に興味を湧くのではないのでしょうか。

この1文字を見たときに、ほとんどの人は何と読むのかと疑問に思うと思います。その答えが武雄における蘭学の導入に始まり、戊辰戦争へつながる偉大な歴史の物語ということですから。

もっと武雄を知りたくなるきっかけになると思います。武雄の蘭学を知るキーポイントとして、この1文字、活用いただければというふうに思います。

そして、武雄の蘭学、現在の武雄高校がある塚崎城跡周辺だけの話ではありません。

鍋島茂義は、砲術を導入するため西洋砲術の第一人者である長崎の高島秋帆の門下に、家臣の平山醇左衛門という人物を抜擢しております。

平山醇左衛門は砲術免許皆伝後、武雄領内はもちろん佐賀本藩においても砲術の指導を行い、佐賀藩の強力な軍事力の源を築いた人物です。その偉大な平山醇左衛門は後に打ち首となってしまいますが、そのお墓は山内町に現存しております。

また、武内町では大砲の試し打ち場や、火薬製造も行われていたという資料もあり、鍋島茂義自ら大砲に弾を込め、試し打ちを行ったという記述もあります。大砲の試し打ち場は、後に武内町から東川登町に移されたとも記されております。

そのように、武雄の蘭学にまつわる場所は周辺部にも存在をしております。

そこで、観光マップのような武雄の蘭学マップなるものを作ってみてはと思います。

モニターに、観光マップを加工して作ったものをイメージとして出しておりますが、武雄高校がある塚崎城跡を中心に、砲術をはじめ、植物学、博物学、医学ほか多種多様の蘭学を学び、習得していく上で、関連する場所やエピソードなどをまとめた蘭学マップでもあれば、武雄の蘭学にもっと興味を持っていただき、周辺部へも足を伸ばすきっかけにつながるのではないかと思います。

武雄の蘭学マップ、これを考えてみてはと思いますが、いかがでしょう。

○議長（吉川里己君）

野口こども教育部理事

○野口こども教育部理事〔登壇〕

今回、洋学・蘭学に関するパンフレットを作成し、その中にマップなどの情報を入れております。8月に開催する企画展に合わせて配布する予定です。

まずはこちらを活用していただければと思います。

○議長（吉川里己君）

6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

そういうパンフレットを今作っていると。8月に出てくるのを楽しみにしたいと思います。

武雄の蘭学にまつわる最後の取組、取り組む価値があるのではないかとと思うのが、物語をつくることです。

先ほど、蘭学の聖地武雄として売り込むことを申しましたが、その蘭学の聖地としての物語があれば、もっと強烈な印象につながるのではないかと思います。

蘭学導入を始めた28代武雄領主、鍋島茂義の時代から、戊辰戦争、佐賀の乱に関わることとなる29代武雄領主、鍋島茂昌の時代の中において、武雄の蘭学が日本の歴史に大きな影響を与えたことを物語にすれば、武雄の知名度はもっと上がるのではないかと思いますけれども。

物語の出来映えでは、漫画化とかドラマ化、映画化もあり得るかも知れません。

県内でも川副町のノリ漁師をモデルとした「ら・かんぱねら」という映画が今年制作され、秋公開予定のようです。武雄も負けてはおられないと思います。

武雄の蘭学をテーマとした物語、まずはつくってみてはと思いますが、いかがでしょう。

○議長（吉川里己君）

山崎営業部長

○山崎営業部長〔登壇〕

物語をつくってということの御質問ですけれども、武雄の歴史文化を広く知ってもらうためには、全ての世代の方々にその魅力が伝わるような、魅力的で分かりやすい情報発信が必要というふうに考えております。

物語の作成につきましては、その手段の一つというふうな考えがありますので、その辺、今後検討していきながら、観光誘客等のパンフレットでの活用など、より効果的な情報発信等も考えていきたいというふうに思います。

○議長（吉川里己君）

6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

一つの考えの中にはあるということで、確かに、プロの方にその物語をつくってもらったりすると相当お金とかもかかると思うんですけども、大まかな粗筋だけでも一般公募で、武雄の皆さんに、物語つくってみませんかみたいなことをやっても、最初はいいのかなというふうに感じます。

もし、物語ができて、それがきっかけで大河ドラマにでもなったら、もう観光客が押し寄せるのではないかと思いますけれども、ぜひとも検討していただきたいと思います。

それでは、武雄温泉駅南口駅前広場についての質問に入ります。

2022年9月23日の西九州新幹線開業とともに武雄温泉駅南口駅前広場が完成し、週末などはいろんなイベントなどで利用をされにぎわいを見せております。

人が多く集まるイベントの際、耳に入ってくるのが、日陰がない、ごみ箱がない、喫煙所がないという言葉です。そのような言葉は、市のほうには入っておりますでしょうか。

また、その対応をどのようになされているのかお尋ねをいたします。

○議長（吉川里己君）

庭木まちづくり部長

○庭木まちづくり部長〔登壇〕

おはようございます。駅前広場で開催されておりますイベントにおいて、議員御質問のうち、日陰が少ない点につきましては、イベントに参加された使用者の方からのお声があることは承知しております。ごみ箱や喫煙所についてのお声は届いておりません。

日陰が少ないとの御意見に対しましては、イベント時の休憩用テントとして市で購入し、イベント使用者へ貸し出す運用を行う予定でございます。ごみ箱や喫煙所に関しましては、まだ対応いたしておりません。

○議長（吉川里己君）

6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

日陰に対しては、テントを購入して準備をしている途中ということですかね。もしその準備ができれば、イベントの企画をされる方などが申込みをすれば貸していただけるという感じかなと思います。

ごみと喫煙所に関しては、これとって意見は入っていないと。

モニターに出しておりますが、広場内に花壇のようなものが整備されております。植樹帯と呼ばれるものらしいです。

以前見た光景ですけれども、人が多く集まったイベントが終わり、片付けをされているスタッフの方がその植樹帯の中に捨てられているごみ、たばこの吸い殻、こういうものを拾われておりました。ちょっとね、こがんとこに捨ててと言いながら、ゴミ袋を持って回っておられました。

この駅前広場ですけれども、観光客の方がよく写真撮影をしたり、腰を下ろしてスマホなどを触っていたりという光景をよく見かけます。

そのときに植樹帯の中を見て、ごみやたばこの吸い殻が入っていたら、どう思われるでしょうか。せっかくの駅前広場がマイナスイメージにつながると思います。

モニターの写真は、イベントも何も行われていない平日の昼間、たまたま立ち寄ったときに見つけたものです。植樹帯の中に、アイスクリームを食べた残りの棒ですね、そしてもう地面にたばこ、足でもみ消してそのままというのが、これ平日の昼間、ございました。

このような状況をどのように思われますか。

○議長（吉川里己君）

庭木まちづくり部長

○庭木まちづくり部長〔登壇〕

南口広場の使用に関しまして、武雄温泉駅南口駅前広場使用許可申請書及び使用許可通知書にて、注意事項として、使用後は清掃することとしており、使用後、主催者においてごみ拾い等をなされているものと存じます。

市のほうで、イベント後のごみの状況までは把握しておりませんが、議員から御紹介いただいたよう、主催者側が利用後にごみを拾っていらっしゃるということについては、決められたルールに沿って御利用いただいていることに改めて感謝申し上げます。

なお、植樹帯などに捨ててあるごみやたばこの吸い殻につきましては、清掃業務において、また今後も対応してまいりたいと考えております。

○議長（吉川里己君）

6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

イベントの際は最後にごみ拾いをお願いしますということを言われているということで、根本的に、何がないからこういう形になるのかということだと思いますので、ここら辺も少し、もうちょっと深く考えていただきたいなというところです。

モニターに南口駅前広場の写真を出しておりますけれども、赤の点線で囲っている部分、旧駅前交番で、現在は解体され更地となっております。

令和4年12月議会において、駅前交番跡地についての質問をいたしました。交番跡地の活

用に関して、当時の答弁では、駅前広場の利用状況や人の動きを見ながら、南口エリア一帯に物事を考え、広場に必要な物を設備し、充実を図りたいという答弁をいただいております。

モニターに交番跡地の写真を出しておりますけれども、見てのとおり、そこそこ広いスペースで、ちょっとした店舗があってもいいんじゃないかなと感じるところです。個人的にですけれども、駅前横町とでも銘を打った屋台でも並んでいけば、ちょっと立ち寄りたくなるなという感じにも思います。

ほんの3日ほど前ですけれども、議会事務局から担当課のお知らせとして、この駅前交番跡地整備のイメージパース図が送られてきました。

そこで目を通させていただいておりますが、旧駅前交番跡地の整備はどのようになっているのか、コンセプトも含めて説明いただきたいと思います。

○議長（吉川里己君）

庭木まちづくり部長

○庭木まちづくり部長〔登壇〕

モニターをお願いします。

（モニター使用）旧交番跡地整備につきましては、今あるイベント広場、まちのリビングをさらに広げるというイメージで計画し、日陰が少ない、キッチンカースペースが少ないなどの問題解決と、ふらっと立ち寄り、ゆっくり会話をしながらくつろげるような空間を演出するよう取り組んでまいります。

具体的には、日陰づくりの屋根、テーブルベンチ、ウッドデッキを配置し、キッチンカースペースも確保し、さらに、庭のような雰囲気となるよう、緑も多く配置いたします。

市民の皆様や来訪者が訪れてくつろげる新しい魅力ある空間になればと考えております。

なお、年内の完成を予定しております。

○議長（吉川里己君）

6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

キッチンカーが止められるスペースとかの確保と、ウッドデッキとか日陰。

でも、パース図を見た感じでは、極端に言えば、公園が広がっただけかなというような印象も受けるところもあります。

この交番跡地、駅前広場のメイン部分からは外れた場所になり、イベントが開催されているときは会場の隅という感じになると思います。

先ほど申しました、ごみやたばこの吸い殻ポイ捨ての解消のため、この交番跡地のどこか一角、隅にでも、ごみ箱や喫煙所の整備、これができないかお尋ねをいたします。

○議長（吉川里己君）

庭木まちづくり部長

○庭木まちづくり部長〔登壇〕

ごみ箱を常設するとなれば、駅前広場を利用する人以外による個人のごみが捨てられる、家庭のごみが持ち込まれるという課題がございます。

先ほど答弁いたしましたように、イベント時においては、使用許可申請書及び使用許可通知書に基づき駅前広場使用者において対応されておりますので、ごみ箱の常設は行わず、まずは状況把握に努めてまいります。

また、喫煙所の設置に関しましても、既存の駅前広場や、今後整備いたします旧交番跡地一帯は、市民の皆さんや来訪者が訪れる場所です。受動喫煙対策の観点からも、当場所での設置はふさわしくないものと考えております。

○議長（吉川里己君）

6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

ここではふさわしくないということですかね。

せっかく整備した駅前広場、ごみやたばこの吸い殻が一つもない心地よい広場という印象を持ってもらえるよう、いろいろできる分を考えていただきたいなと思います。

先ほどのパース図を活用させてもらって、ある部分にごみ箱と喫煙所をちょっと付け加えておりますけど。

たばこに関しては、武雄市に年間4億円の税収が入っております。喫煙所がないから敷地内の隅で喫煙し、吸い殻は目立たないところへ捨てるという悪循環が起きていると思います。愛煙家への恩恵も幾らかあっていいんじゃないかと思っておりますので、何らか検討していただきたいと思っております。

最後の、治水対策についての質問に入ります。

私、これまで何度となく、治水対策についていろんな提案をしてみました。

遊水池公園、調整地公園などの整備や、六角川の水位が上昇した際、六角川の一部の水を広田川へ分岐させる案、六角川右岸側、左岸側に巨大な排水管を整備し、排水ポンプでくみ上げた水は別で流す案、また、地下に大規模な貯留槽、もしくは貯留管を整備してはなどなど提案をしてみました。多額の予算が生じるなどの答弁もいただき続けております。

今回は、大雨の際、六角川の支流河川の上流部の状況や危険性の観点から、治水対策について、幾つか質問と提案をさせていただきたいと思っております。

ここから申し上げます上流部、上流域や下流部、下流域というのは、六角川の支流河川のこととしてお聞きいただきたいと思っております。

下流部へ流れ込む水量を上流部で一時的にため込む方法、これは下流部への急激な水位の上昇を抑えることに効果的であると思っております。ため池はほとんどが上流部に存在していることから、武雄市が進めているため池のしゅんせつは効果があるものと感じております。

そのため池のしゅんせつ事業ですけれども、現時点においてどれぐらい進んでいるのか、また、今後どのような予定等があるのかお尋ねをいたします。

○議長（吉川里己君）

庭木まちづくり部長

○庭木まちづくり部長〔登壇〕

昨年度までに4か所のしゅんせつを実施いたしまして、今年度、6か所のしゅんせつを計画しております。当初計画でありましたため池のしゅんせつは10か所としておりましたので、本年度で完了し、なおかつ、緊急浚渫推進事業債の期間も今年度であります。

今後はしゅんせつしたため池の治水効果を見極めながら、令和7年度以降の計画については検討してまいりたいと存じます。

○議長（吉川里己君）

6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

今年度で予定していた10か所は終わると。今後のことはまだこれからということですかね。

上流部に存在するため池、これしゅんせつがほとんど済んでくるとは思いますけど、ため込む容量が増えたとしても、大雨が発生したとき、既に満水や、満水に近い状態、こういう状態であれば、下流部への水の流れの抑制にはつながらんとは思います。先ほど、ため池しゅんせつ事業の進捗状況、説明いただきましたけれども、ため池にたまる水の水位をやはり事前にしっかり調整するということが、とても重要なことではないかと思えます。

そのような作業、事前に水位を落とすなどなどの作業、これは適正に行われているのか。また、マニュアルなどで示されているのかお尋ねをいたします。

○議長（吉川里己君）

庭木まちづくり部長

○庭木まちづくり部長〔登壇〕

ため池の低水位管理は、出水期にため池の水位を下げおくことで、山間部などで降った雨を一時的に貯留し、河川や水路の急激な増水や浸水被害を軽減させる取組でございます。

市内にある3万立米以上のため池を治水効果の高いため池と位置づけし、ため池の管理者や農業関係者の皆様方の御協力により、低水位管理を実施いただいております。昨年度は43か所のため池で約104万立米の洪水調整量を確保しております。

それから、マニュアル等につきましては、ため池の管理がそれぞれ異なるために、統一したマニュアルはございません。

ため池管理者の方々と現地にて確認、協議を行い、営農に支障のない範囲で、7月1日から9月30日までの期間で約10%以上の貯水量を確保していただくよう説明しております。

○議長（吉川里己君）

6 番吉原議員

○6 番（吉原新司君）〔登壇〕

今、管理者と、主に区長さんたちが多いのかなというふうに思うところですが、情報をやり取りしながら行って、適正に行っているということですかね。

この水位の調整ですね、これをしっかり適切に行われれば、下流部へ流れ込む水の量が抑えられて負担軽減につながると思いますので、今後も管理者の皆さんと情報交換しながら、水位の管理をお願いしたいと思います。

下流部の急激な水位の上昇を抑えることも重要ではありますが、私が危機感を持つのは、上流部でも特に、山沿いや山間部でため池のようなため込む施設がない地域です。

そのような地域は、近年のように時間雨量 100 ミリ前後の雨が降った場合、谷のほうから大量の水が流れてくることとなります。御存じのとおり、そのような地域の川は川幅が狭く、蛇行しており、勾配も急であります。

モニターに、大雨の際に上流部で見られる濁流の画像を出しております。これ、写真は武雄で撮影されたものではありませんけれども、まさにこのような状況になります。

元年の水害の際は、短時間に大量の雨が降ったため、モニターのような濁流の状況がありました。そこから、あちらこちらで氾濫し、隣接する道路、農地、住宅などに土砂や石、流木などが流れ込みました。

このような地域にお住まいの方は、身の危険、恐怖を感じたと申されます。

そして、山沿いや山間部で警戒しなくてはならないのが、土砂崩れや地滑りの災害です。

モニターに、昨年 7 月 10 日に唐津市浜玉町で起こった大規模災害の画像を出しております。3 人の方が犠牲となりました。

この災害で私が気になったのは、急傾斜地崩壊対策事業が行われているところと、なされていないところが境になっているということです。

次のモニターに、土砂災害が発生する前の航空写真と発災後の写真を出しております。

赤の点線で囲っている部分、土砂崩れが発生しております。オレンジの矢印で示している部分を見れば、急傾斜地崩壊対策事業が行われたことが分かると思います。

この急傾斜地崩壊対策事業があと 20 メートルでも延長していれば、3 人の方の命と家屋への被害が免れたのかもしれませんが。

しかし、この急傾斜地崩壊対策事業は地権者の負担が 25% であることから、なかなか進んでいないと感じております。

そこで、治水対策の観点から、土砂災害防止にもつながる事業があるのではないかと思います。

武雄市は昨年 3 月に特定都市河川に指定され、治水対策を進めております。その中で、流

域治水という言葉が頻繁に使われております。

モニターに、流域治水のイメージを出しております。

流域治水とは、イラストにある全てで治水を考え、取り組むことです。

このイラストの中に、先ほど申しました、土砂災害のリスクを下げることにもつながるヒントがあります。イラストに赤の点線で囲っている、砂防関係施設の整備と治水ダム建設・再生というところです。

これ、現在、武雄市で進めている治水対策の中で、何か計画は、なされていることはありますか。お尋ねします。

○議長（吉川里己君）

庭木まちづくり部長

○庭木まちづくり部長〔登壇〕

現時点におきまして、計画はございません。

○議長（吉川里己君）

6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

現時点ではこういった計画はないということですね。

先ほど、去年の唐津市浜玉町の大規模土砂災害のことを申しました。再度モニターを出しますけれども、赤の点線で崩れた部分ですね、ここに砂防関係施設、もしくは治水ダムでも整備されていれば、このような大きな被害を回避できたのではないかと思います。

武雄市において、流域治水に取り組む上で、砂防関係施設や治水ダムの整備、これも考えていくべきではないかと思います。

モニターに朝日、橘、北方の浸水被害が想定される地域のハザードマップを出しております。見て分かるように、浸水想定区域は山に囲まれております。

山に降った雨を多くの場所でキャッチできれば、下流部への急激な水位の上昇を抑えることができるはずです。

このハザードマップを、今度、土砂災害に切り替えると、モニターのようになります。山沿いや山間部、多くの場所で警戒区域、特別警戒区域が存在していることが分かると思います。

そのような区域にお住まいの方は、大雨の際、何より、土砂災害が起こらないか不安に思われております。

モニターの画像が小さくて分かりにくいので、ある部分だけをちょっと大きくしてみますが、急傾斜地警戒区域の青色、急傾斜地、土石流の特別警戒区域ですね、赤色、そして、扇の形に示されている、土石流警戒区域が示されております。緑の扇で示されている、土石流警戒区域になっておりますけれども、右側が広がっていて、左が狭いということは、左側が山

側で、谷部分から広がって土石流が来るおそれがありますよという表現だと思います。

そういうところに、やはり、先ほど申しました砂防関係施設や治水ダム、こういうものを整備すれば、土砂災害のリスクが相当下がってくるんじゃないかと思います。このハザードマップに示されている赤、青、緑も減ってくると思います。

ため池など、山沿い、山間部の地形とか民家の数、河川の状況を基に、治水対策により効果的な場所を絞り込んで、治水ダムとか砂防関係施設、この整備も、武雄市の治水対策事業として進めていくべきではないかと考えますけども、いかがでしょう。

○議長（吉川里己君）

庭木まちづくり部長

○庭木まちづくり部長〔登壇〕

議員御提案の、治水ダムや砂防施設などの新たな建設につきましては、やはり計画から施工までの、相当な時間を要するため、まずは既存の施設を活用することを優先したいため、検討しておりません。

現在、既存ダムを活用した治水対策について、少し現状を説明させていただきたいと存じます。

令和元年の災害を受け、既存ダムを活用した治水能力の強化を進めるため、六角川水系治水協定を締結しております。

協定の内容といたしましては、武雄市にあります繁昌ダム、庭木ダム、矢筈ダムにおいて、出水期に事前に水位を下げて治水貯留量を確保するもので、3つのダムで約95万立米を貯留できます。また、豪雨が予想される場合は、先ほど説明いたしました3つのダムにおいて、事前放流をすることもできるよう、協定に盛り込まれております。

このように、ため池や既存ダムを農業用水の利水目的から一部治水対策のために活用することを、関係者の御理解を得ながら、優先的に考えていきたいと考えております。

先ほど議員からお話ありました土砂災害に関しましても、治水対策と同様に、いろんな策で進めていきたいと考えております。

○議長（吉川里己君）

6番吉原議員

○6番（吉原新司君）〔登壇〕

既存の施設を活用していることを、進めているということ。

私が言いたいのは、そういう施設がないところは、谷側からもう大量の雨が、水が下ってきて、自分の家が危ない、もう周りの川があふれる、壊れる、農地に土砂が流れ込むということで苦しんでおられる方がおるということで、治水対策の中で考えてみてはということ申しました。

もし、今ないところにそういうものができれば、土砂災害に関してと治水対策、両面でメ

リットが出てくるというふうに思います。確かに、造るのには時間もかかるか分かりませんが、そういうところもちょっと頭に入れてもらって、今後、進めていってもらえればと思います。

以上をもちまして、6番吉原新司、令和6年6月定例会一般質問を終わります。

○議長（吉川里己君）

以上で6番吉原議員の質問を終了させていただきます。

ここで、議事の都合上、10分程度休憩いたします。

休 憩 9時50分

再 開 9時59分

○議長（吉川里己君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、8番豊村議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

（全般モニター使用）議長より登壇の許可をいただきましたので、8番豊村貴司、一般質問を始めます。

今回は大きく3つの項目を上げていましたが、そのうちの大学設置についての質問は、今議会で予算議案も提出されていることから、14日午前10時からの本会議における議案質疑において質問をすることにいたしました。その際はテレビ中継がありませんので、ぜひ傍聴にお越しいただき質疑について御確認いただければと思います。

それでは、今回の一般質問に入ります。

まず最初の項目、福祉政策についてに入ります。

福祉政策については、幅広く全ての世代において関連し、人生を安心して過ごしていくためにも必要な方に必要なサポートが行えることが大事になると考えます。

私もリハビリテーションの業務に関連して、高齢者や障がいを持つ方、また、その御家族と関わったり、いろんな職種の方と意見を交わすことがあります。そこで大事になることは相談体制や各事業所、職種の連携と感じています。

1年前の令和5年6月議会の一般質問において、社会福祉法の改正により、令和3年4月から国において創設された重層的支援体制整備事業について、武雄市としての考え、取組状況等について伺いました。

答弁では、令和4年に福祉まるごと相談窓口を設置して、相談支援を中心に取り組んでいるとありました。

縦割りではなく、重層的支援体制として包括的にサポートすることが求められている中で、こうした福祉まるごととしての相談窓口の設置は事業としても大事な点と考えます。

そのときの一般質問から1年が経過していますが、令和4年、令和5年度と、福祉まると相談窓口を設置され、相談件数や相談概要としてどのようにあるか答弁をお願いいたします。

○議長（吉川里己君）

後藤福祉部長

○後藤福祉部長〔登壇〕

おはようございます。モニターをお願いします。

（モニター使用）議員御質問の福祉まると相談窓口の、まず、相談件数についてでございます。

実件数で令和4年度は69件、5年度は82件、2か年合計で151件となっております。

相談内容を2年間の実件数から分野別に分析をいたしました。

左の円グラフを御覧ください。

介護分野が25%、障害21%、子供5%、生活困窮19%、その他30%となっております。

その他の内容につきましては、ひきこもりでありますとか地域からの孤立、車上生活などとなっております。

右の円グラフを御覧ください。

2つ以上の分野の課題を有する複合的な相談が60%を超えております。課題が多岐にわたる複合的なケースについては、支援期間も長期化しているという傾向となっております。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

2年で151件。やはり多いなというふうに、それだけいろんな相談窓口としての対応ができてきているということかなとも思いますし、言われたように、2つ以上の課題を抱える複合的な課題が過半数の62%ということで、複合的となると、やはり冒頭言いましたように、単独ではなく、縦割りではなく、いろんな機関が関連してくる、その必要性があるものと思います。

そこで、地域福祉支援員ということについて質問いたしますが、地域福祉支援員（コミュニティソーシャルワーカー）ということですが、新たに設置をされています。

さきの議会での説明では、アウトリーチ型の訪問相談や、相談者と民生委員や関係機関等との仲介を行うなど、暮らしの中での困り事への相談支援を強化してまいりますということでした。

やはり重層的支援体制として、こうした関係機関との仲介の役割ということ、大事なことだと思います。先ほども答弁でありましたように、複数の課題がある方が多くあるわけですから、やはり関係機関をうまくつなぐ、コーディネートする、そういったところ大事と思いま

す。

この地域福祉支援員について、設置されてから間もなくではありますが、改めて役割や取組状況について答弁をお願いいたします。

○議長（吉川里己君）

後藤福祉部長

○後藤福祉部長〔登壇〕

議員御質問の地域福祉支援員でございます。

これにつきましては、先ほどの福祉まるごと相談窓口、この業務の強化のために、本年、令和6年4月より武雄市の社会福祉協議会に1名の専門職を配置しまして、福祉の相談への対応、相談内容に応じ、先ほどありました関係機関につなぐ役割、それから積極的な訪問による支援、民生委員さんなどの関係機関との同行訪問等の伴走型の支援を行う役割を担い、切れ目のない支援を実施しているところでございます。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

社会福祉協議会に1名配置してということで、伴走形でいろんな民生委員さん等とも動かれているということで、やはり、先ほど言いましたように大事な役割があると思います。重層的な支援体制をつくっていく上でもですね、思いますので、やはりしっかり動けるようにというふうに思いますので、今後、状況を見て、やはりこの活動が大変というふうな形になれば、果たして1名でいいのかというふうなところも出てくると思いますので、経過についてよく見ていっていただいて、支援体制がうまく回るような形、そこの確認もしていただきたいと思いますし、あと、やはりこういった役割の方がいるんだというのを、いろんな関係機関、その自立支援協議会等で触れられているか分かりませんが、事例としても出したりとかしながら、うまく皆さんに認知されながら活動できるというふうな体制づくりもしていただきたいと思います。

次に、社会福祉法第107条市町村地域福祉計画として、武雄市においても武雄市地域福祉計画がされています。

計画の目的としては、地域における福祉課題を地域で解決していく包括的な支援体制づくりとして策定され、地域福祉の視点から市民と関係機関をつなげていくことを目的とするとされています。

この計画は、平成27年度から平成31年度の第1期計画を引き継いで、その後、令和2年度から令和6年度までを第2期として現在策定され、計画に基づき取り組まれています。

計画としては今年度までということですので、年度内にこの武雄市地域福祉計画の見直しが行われると思いますが、その中でも、先ほど言いました重層的支援体制整備事業も

関連してくると思います。

そこで質問ですが、この武雄市地域福祉計画の見直しについて、どのような考えを持って取り組んでいこうとされているか、方向性など答弁をお願いいたします。

○議長（吉川里己君）

後藤福祉部長

○後藤福祉部長〔登壇〕

議員に先ほど御紹介していただきました現在の武雄市の地域福祉計画につきましては、今年度が最終年度であるため、更新に向けた作業に今取りかかっているところでございます。

本計画におきましては、議員御質問の重層的支援体制整備事業、これを重点項目の一つと位置づけまして、地域や関係機関との連携や地域福祉の課題解決に向けた取組、そして、その仕組みなどを包括的な支援体制の整備として計画に盛り込み、実効性のある計画として策定をしていきたいというふうに考えております。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

今言われた部分、非常に大事な点と思います。

計画だけで終わるのではなく、実効性があるものとしてできるようにしていくと。そのためには、やはり関係機関からの意見聴取であったりとか、現場の確認とか、そういったことが大事になってくると思いますので、そういった点、しっかり声を聞きながら計画に反映して、より適切な形にできるようにしていただきたいと思います。

地域社会で、先ほど言いましたようにしっかりと実行できていくためには、やはり人材の確保というところも大事な点と思います。

冒頭で言いましたように、私もリハビリの業務に関わりながら独居高齢者の人とか、高齢者御夫婦世帯と関わるがありますが、そこで感じるのは、やはり生活をサポートできる体制、例えば、もう自宅でのヘルパーさん、こういった人材とかも欠かすことができない重要な役割を持つものと感じています。

以前、新聞にも出ていましたが、ヘルパーさんは高齢化であったりとか、賃金のことであったりとか、そういった部分でなかなか人材が確保できないと。そういった声が上がっていますし、ヘルパー事業所以外でも複数の介護関係の管理者、事務方の方とも話をしましたが、なかなか求人を出してもハローワークからはなかなか来ない。民間の紹介所から来るけれどもそこは手数料も払わないといけない。どれだけ定着するかというリスクもあったりとか。そういったことがあってなかなか苦慮をされていると。

最近、外国人の方が入ってきている。そういった人材の活用というものもあるんだけど、情報によると、中国のほうでもこういった介護関連の施設が急速に増えてきて、大規模

で増えてきて、しかも介護関係の賃金が高いと。そっちに流れていくというところも動きとしてはあるよさだという話もちよっと聞いたことがあります。

以前、私も一般質問で、この人材確保について取り上げたことがあります。

将来的に子供たちがその道に進むためには、介護人材確保するためには、その道に進もうという気持ちになってもらわないといけないと。そのときに、小学生とか中学生の、例えば学校の授業で福祉体験とか、そういったことをしながら介護とか福祉の体験をして、そっちの道に進もうかなというふうなところに関連づけて取り組んでいく。そういったこともできないかなというふうな話もしましたし、やはり、どうしても大変というイメージがついているところがあります。

全国的に見たときに、やはりいろんな取組をさせているところが自治体でもあります。

例えば佐賀県においては、県内の介護従事者と行政担当者の方々が、介護の魅力を見つけて発信する方法を考えるようなミーティングが行われたりもしています。福岡県においては、介護人材確保・定着促進に係る取組として、先ほど言いましたような小中高生を対象とした介護の仕事を理解してもらうための高齢者ふれあい体験や就業体験を実施する事業など、様々な事業が全国でも取組として上がっています。

正直やはり賃金の部分があります。国のほうも介護報酬改定の方で賃金アップにつなげる動きもあっているんですが、現場としてはまだまだ実感できるようなところありません。

そこは、もちろん引き続きの検討、取組が必要と思うんですが、先ほど言いましたように、自治体でそれぞれ取り組まれているようなところもあります。やはり、武雄市民の生活、高齢者の方々の生活を守っていくという部分で、しっかり人材確保ができることによって、計画もやっぱり動いていける部分もあると思います。

そこで質問ですが、武雄市として介護、福祉分野での人材確保について取り組まれている点があれば答弁をお願いいたします。

また、今後、検討しようとしていることなどもあれば、併せて答弁をお願いいたします。

○議長（吉川里己君）

後藤福祉部長

○後藤福祉部長〔登壇〕

福祉の人材確保につきまして、就職面談会、これは福祉に特化したものではございませんが、市単独の主催と、有田・武雄・嬉野地区連携会議主催、それぞれで開催をしております。その就職面談会の中で福祉分野の関係機関、事業所にも出展をいただいているところでございます。

また、障害者雇用の関連で、市において、障がい者就職面接会を開催しております。そこにおいても、福祉の関係機関、事業所に参加をしていただき、実際、雇用につなげているところでございます。

また、日頃ですけど、国や県が実施しております研修でありますとか、助成制度等の周知を行い、福祉に興味、関心のある方に情報提供を行っているところです。

また、学生の方にも職業体験先として、福祉の事業所を紹介したりとかというのも行っております。

今後でございますけど、福祉の人材確保につきましては、市としてどのような取組ができるのか、引き続き現状把握と情報収集に努めていきたいというふうに考えております。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

市としてどうできるか、今後も現状把握等をということですけども、先ほど言いましたように、大変というイメージがあったりするんですけども、私ももう30年リハビリの業界にいて、医療介護の現場にいますけど、高齢者の人たちと話してすごく楽しいんですよ。

やっぱり高齢者の人、よく言われるんですけど、もう今さら筋力トレーニングしても強くなりませんかと言われるんですけど、なるんですよ。やっぱりやっていけば成果も見えたりして、お互いにそこで笑顔になれるような達成感があったりとか、いろんなやりがいという部分があります。これはリハビリだけじゃなくて、介護の面でも同様に、もちろんあるわけですよ。

市としてどうできるか把握していくという、検討していくということですけども、私が武雄に来た最初の頃は、介護福祉関係のイベントがあったことを記憶しています。私がまだ老人保健施設にいるときに、相談窓口で私もそのイベントに行った記憶があるんですけども、積極的に何か動いていただきたいなというふうに思うところがあります。

市長の見解を伺ってよろしいでしょうか。

○議長（吉川里己君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

おはようございます。ちょっと介護とは直接違うんですけども、先日、高校生とかというろい意見交換をしていると、将来看護師になりたいと。何でなりたいたいんですかと聞いたときに、やはりおばあちゃんやおじいちゃんが病気になってっていうのが大きなきっかけだったと。

要は、それが身近だったというのは、将来の選択に大きなきっかけだと思いました。

そういう意味で、今、核家族化が進んでいるので、余計やっぱりそういう機会がない。だから、議員おっしゃるように、小さい頃から自分には縁遠い、よく分からない職業ではなくて、やっぱり身近に感じてもらう、知ってもらう機会をたくさんつくっていくことが必要だと思っています。

先ほどの答弁だと、そういった学校への職業体験への紹介というのはしておりますけれども、今いろいろキャリア教育とか言われていますので、私としてはやっぱりそういったところをさらにもっといろんな場面で踏み込んでいって、若いときからとにかく身近にこういう職業があるんだと。そして、実際現場に行って、さっきおっしゃったような高齢者の方と実際触れ合うと、多分、考え方や感じ方も変わると思うんですよね。

ぜひ、まずはそういう機会をこれまで以上につくっていきたいと考えています。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

市長も言われましたように、核家族化という部分で、そういったところ関連してくる部分あると思います。

私も病院で理学療法士の実習生を受け入れるときに、じいちゃん、ばあちゃんと同居していない学生は、じいちゃん、ばあちゃんと何を話していいかが分からないとかということも多々聞かれました。コミュニケーションの取り方からどうすればいいのかと、そういうこともありました。

ですから、やはり、なかなかやっぱり踏み込めないというふうなところもあるかもしれないですし、市長が言われたように、触れる機会とか、そういったところを創出していただくというところ。そこは人材確保につながる一つの手段でもあると思いますので、結局、やっぱり自分たちが高齢者になったとき、どう社会があるかというふうな体制にもつながってきますので、ぜひ検討して動いていただきたいと思います。

次にですが、高齢者等の行政手続きに入ります。

行政手続というと様々ありますが、これまでも議会の一般質問で何度か取り上げてきました。

令和5年の3月議会では、バス・タクシー券について、そもそも引換えに行かなくていいようにできないかと質問をし、そのときの答弁としては、部長は引換えに行かなくてもいいような施策についてはしっかりと考えてまいりたいと思いますと答弁され、また、市長は、全ての皆さんがとにかく困らないように、そして全てに行き渡らせるのであれば、そのために何をすべきかと庁内でもしっかり今後徹底をしてまいりたいと答弁されました。

そして、令和5年の6月議会——去年ですね——では、同じくバス・タクシー券について、引換えに行かれていない方について、郵送による申請交付を行ったということでしたが、そういうふうな対応を行ったということですが、郵送するにも、郵便ポストのあるところまで行かないといけないわけですね。そこまで行けないという方もいらっしゃいます。

このときの一般質問でも述べましたが、引換えに行かれなかった方々の気持ち、心理、行動がどうあったのかというところを調査しないと、より適切に対応できないのではないかと

言いました。

今回、たけお生活サポート給付金、いわゆる市民1人当たり2,000円を支給するという物価高騰支援としての給付金ですが、これも高齢者の方から複数、私も強く意見を言われました。

金額というのはちょっと別として、手続という面で言いますと、マイナンバーカードで申請できる部分もありますけれども、高齢者の方々がマイナンバーカードで手続するというよりも、やはり郵送のほうを考えられるわけなんですけど、私が言われた意見は、やっぱり本人確認とか口座の写し、つまりコピーを取って、コピーを貼って郵送しなければならないと。

もちろん、先ほど言ったようにマイナンバーカードの手続もありますけれども、高齢者の方はコピー1枚取るのもなかなか簡単ではないわけですね。コピー機自体がそもそもないところもあります。

私もデイサービスのほうに勤務したりしていますが、デイサービスの職員さんにコピーしてもらえんやろうかというふうに頼まれたりしているところもありました。そういった面も見ています。

そこで質問ですが、こうした点、今回のたけお生活サポート給付金の手続について申請に関する状況をどのように把握し考えられているか、高齢者等への状況の聞き取り等はされたか答弁をお願いいたします。

○議長（吉川里己君）

松尾企画部長

○松尾企画部長〔登壇〕

おはようございます。たけお生活サポート給付金事業につきましては、事業を始める前に直接高齢者等へ手続に関する意見はお伺いしておりません。

しかしながら、これまで給付金や商品券事業を実施した際の市民からの御意見等を庁内で共有し、記載方法を簡素化するなどの見直しを行い、申請書や受付マニュアル等を作成しております。

また、老人福祉施設関係者や高齢者等と接する機会が多い人たちからの意見もお伺いしていない状況であります。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

これまでの申請に関する部分で、すみません、確認ですけれども、市民の方々の意見を庁内で共有したということ。

それは高齢者の方々、私が聞いているのは、高齢者の方々の状況にも聞き取りをされたのかというふうなところなんですけど、改めてそこをもう一回、明確に答弁をお願いいたします。

○議長（吉川里己君）

松尾企画部長

○松尾企画部長〔登壇〕

このたけお生活サポート給付金事業の申請につきましては、高齢者等の手続に関する意見等は直接聞いておりません。庁内での意見共有に努めております。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

高齢者等には直接伺っていないと。

先ほど言いましたように、私もデイサービスのところで職員さんにコピーをお願いしますと言われたケースもありましたと言いました。

西川登町の地域包括ケアシステムの拠点のかんころの家さん、ここは利用をされている方々に申請の手続のお手伝いをされたと聞いています。これはやはり拠点としてすばらしい取組をされているなというふうに思ったのですが、高齢者にやっぱり聞く必要もあると思います。

それと、先ほど言ったように、デイサービスとか拠点とか、高齢者と接する関係者の人たち、こういったところにも聞く必要があるんじゃないかと。先ほども答弁で聞いていないというふうなことを言われましたけれども、やはり、前の答弁で市長のほうで、全ての皆さんがとにかく困らないように、そして、全てに行き渡らせるので、あるいはそのために何をすべきかと庁内でもしっかり今後徹底をしてまいりたいと言われたように、やはり全てに行き渡らせるって、そのためには何が必要なのか、そのためには原因を確認しないといけないと。

リハビリでも、歩けない人はなぜ歩けないのか。筋肉なのか、骨なのかとか、痛みなのかと、その原因をしっかりと見つけてそれに対処しないと、間違ったアプローチをしても回復につながらないというところがあります。

同じようにここも、こういったことを、やはりどういった状況にあるかというのをしっかりと把握していかないと、適切なアプローチになっていかないと思いますし、同じようなことの意見が出てくると思います。

こういった点、しっかり現場の意見とか聞いていただきながらやっていただきたいと思います。

市長の見解をお願いいたします。

○議長（吉川里己君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

一人一人が自分らしく幸せに暮らせるまちを目指すというふうに従来から申し上げてお

りますけれども、それは少し言い方を変えれば、当事者の立場や気持ちになって行動をするということだと思っています。

そういう点で、まだまだ今、行き渡っていない部分があるというのは率直に反省をしなければならぬと思っています。

高齢者の方だけではなくて、障がい者であるとか、子供であるとか、そこは様々な立場の方がいらっしゃると思いますので、その方の立場になって今後、手続をしっかりと取っていききたいというふうに思います。

今回、私も聞いていますが、やっぱり前回と比べて、なるべく手続を簡素化しよう、簡単にしようというところの努力というのはあったというふうに思いますけれども、まだそれでも実際十分ではなかったということでもあります。

手続で、どうしても行政が簡素化できない部分というのがですね、例えば、さっきの通帳のコピーとか、それを実際どう確認するかと。そういったところは不正を防止するためにも、どうしても行政として確認しなければならない。

じゃあ、そういうときに今までどおりでいいのではなくて、おっしゃるように、福祉事業者の方であったり、あとは民生委員の方であったり、地域包括であったり、そういった方に相談をしながらしっかりと連携を取って、たとえ簡素化できなくてもスムーズに手続ができるように、今後連携を図っていきたいと考えております。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

どうしても行政として、市長も言われたように簡素化できない部分もあると思うんですが、市長が言われたように、その場合に、じゃあどうすれば補うことができるかというところをしっかりと模索していただきたいと思ひますし、連携を図っていただきたいと思ひます。

まずはどういう状況かというところを、松尾部長さん、しっかりと聞いていただくような体制づくりを取っていただきたいというふうに思ひます。よろしくお願ひいたします。

福祉関係に関しては、様々私も御意見を伺っています。

例えば障害の部分でも、物価高騰の中で物品が上がっている中で日常生活の部分の給付の見直しがあつてはありますが、なかなか追いついていないというふうなところも上がつてはありますが、例えば紙おむつ支給事業、これが要支援の方が今後は支給対象から外れるとか、要介護の方は医師の証明書の提出が必要と。それもちよつと証明書をもらうのにお金がかつたりとかというのもありますけど。

あとは、緊急通報システム対応に関しても、設置費用がかかるようになったとかですね。

例えば生きがいデイサービスについても、3か所あつたのが1か所になると。ニーズがちょつと増えたことで、レクリエーションのやり方、そういったところもちよつと苦慮してい

るとか、そういったいろんな意見も聞いています。

これらに関しても、やはり現場の声を聞いていただきながら、今後の福祉計画であるとか、実行できるもの、そういったところにつなげていただきたいと思いますので、まずは現場の声を聞くというところでしっかり動いていただきたいと思います。よろしくお願いします。

それでは、次の項目、人口減少対策に入ります。

武雄市におけるまち・ひと・しごと創生総合戦略、通称もっと輝くスター戦略ですが、現在第2期として令和2年度から令和6年度、つまり今年度までの期間として策定をされています。

この総合戦略における基本的視点では、少子高齢化及び人口減少に歯止めをかける取組の強化が必要であると書かれています。

そこで質問ですが、次期に向けての検討に入るとは思いますが、この戦略には、各具体的施策に目標値が示されています。こういった部分の評価について、いつ頃評価に取り組んでいこうと考えているか答弁をお願いいたします。

○議長（吉川里己君）

松尾企画部長

○松尾企画部長〔登壇〕

第2期武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略、もっと輝くスター戦略には、その進捗を確認する指標として目標ごとにK P I という重要業績評価指標の徹底をしております。

その進捗状況につきましては、住民や民間事業者等の代表で構成される武雄市まち・ひと・しごと創生推進懇話会において毎年御意見をいただき、検証をしているところでございます。本年度も令和5年度までの実績を基に5月28日に開催し、御意見をいただいたところです。

議員御質問の第2期総合戦略の最終的な全体評価につきましては、このK P I に今年度の取組をできる限り数値化し、本年度秋頃までに取り組む予定でございます。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

本年度秋頃までに評価を行っていくということで、やはり、先ほどの福祉政策と同じですけども、評価をしてやはり状況を見定めないと、今後の適切な動きにつながらないと思います。

そこで、では、評価を行って、第2期の期間が今年度までということで、総合戦略全体としての見直しについては、どのように考えて方向性を持って取り組んでいこうと考えているか、スケジュール観も併せて答弁をお願いいたします。

○議長（吉川里己君）

松尾企画部長

○松尾企画部長〔登壇〕

第3期武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略につきましても、武雄市の地方創成を目指す基本的方向性は変わらないため、市民一人一人が幸せに暮らすまちの実現を目的とした第2期の形のベースと考えております。

策定プロセスにつきましては、3月議会の一般質問において牟田議員の御質問にお答えしたとおり、様々な意見を聞くために地域での市民ワークショップや市民団体へのヒアリングなどを行い、本年度中にそのような意見を基に策定いたします。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

様々、意見を聞いていただきながら、また、提示もしていただきながら取り組んでいただきたいと思います。

何しろこの人口減少社会にどう立ち向かうかって、そういったところ、やはり考えの柱を持って取り組まないとなかなかしっかり実行できないと思います。この総合戦略つくることが交付金等にも関係してくる部分があると思いますので、しっかり作成をお願いしたいと思います。

そこで、ちょっと人口減少対策ということに絡めて質問をいたしますが、現在、武雄市内に、例えば警察官舎とか公務員官舎といった、そういった官舎はどこに幾つあるか答弁をお願いいたします。

○議長（吉川里己君）

松尾企画部長

○松尾企画部長〔登壇〕

市が確認できる国県の官舎の数は、武雄町に7か所、朝日町に1か所でございます。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

武雄町に7か所、朝日町に1か所ということですかね。

特に武雄町に集中している状況というのがあると思います。よく、一極集中ということが、全国を見た視点でも言われていますが、武雄市においても、今、官舎の分では、同じように言える部分があるのかなと思います。

市内で言えば、各町においては学校のこともあります。

学校については、生徒数が減らないようにと考えるわけですが、対策として移住というところがありますが、ちょっと考えたのですが、それ以外に、先ほどの官舎について、国とか県の官舎ですね。それを武雄町以外に設置すると。そうできないかなと考えます。

これ、なぜかという、管轄は武雄市ではないんですが、官舎はやっぱり異動で定期的に世帯が入ってきます。私が住む地域にも官舎が幾つもありますけれども、子育て世代がいて、そこに異動で来た世帯の子供が学校に通うというケースがあるわけですね。

うちの地域でもありますけども、官舎に住んでいて、官舎を出て、その地域に家を建てて住まわれたってケースも何ケースもあります。よく、移住で言えば、お試し移住というのがありますけれども、官舎にそうやって異動で住むことによって、ある意味お試し移住的なところもあるんですけども、要は、移住してくださいという部分もいろんなハードルありますけれども、この官舎が周辺地域にあれば、自動的にそこに世帯、子供がいる世帯——必ず子供がいるとは言えませんが——が入ってくる。そうすると、その学校に通う子供を一定数、自動的に確保できるようにつながるんじゃないかなと思いました。

提案というふうなところになりますけれども、国とか県に、人口減少対策の一つとして、武雄町に全部集中させるんじゃなくて周りにそういうふうな設置を促す。そういった働きかけができないかと思いますが、この点についてどう考えるか答弁をお願いいたします。

○議長（吉川里己君）

松尾企画部長

○松尾企画部長〔登壇〕

官舎が増えることにつきましては、市の経済活性化につながると考えます。

まずは国や県に、今後市内に官舎の建設予定があるか御確認いたします。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

建設が予定があるか確認するということですが、私がちょっと言っている部分は、そういった考えを国のほうに働きかける、そういったことについてどうでしょうかという部分がありますが、市長、この点について、提案についてどのように考えるか答弁をお願いいたします。

○議長（吉川里己君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

武雄に引っ越してきて転勤でアパートに住んでいる方とか、あと、この武雄に嫁いでこられた方と話をすると、今まで武雄というところはイメージが湧かなかったけれども、実際住んでみると大変住みやすく、環境もよくて、便利でというのが分かりましたという話は度々聞きます。

先ほどお試し移住という話はありませんでしたが、同じように、実際何かの機会に住んでもらって武雄の生活を体感していただくというのは、確かにこれは定住につながっていくと

いうふうに思っています。

国の場合は、恐らく2年来て、またどこか遠くに行くということなので、定住というのはどこまでできるかというのはあるとは思いますが、確かに、実際官舎があると、誰かが出て行っても、その後、後任が入ってくるということで、一定そこには人がいるという効果もあると思います。

ここについては、何となくイメージしたのは、国の官庁が地方に、文化庁が京都に行くみたいなそんなイメージがあって、多分、やっぱりなかなかハードルは高いのかもしれないですけども、ここについては国や県の考え方について、市からもぜひ確認をしてみたいと考えております。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

実際に地域のほうに官舎が今あります。けれども、全部埋まっているというふうなところはあんまりないかなというふうに思います。結構空いているところがですね。

そうなったときに、それらをもう集約する、見直しですね。例えば、もうその土地は売却してもらって、新たに集約した形で武雄町以外のところに設置してもらおうとかですね、そういうふうなことも考えられないかなと思います。

この間、新聞では、国交省のほうの子育て世代に関して公設のアパートの、何かリフォームの支援であるとか、あと、空き家を子育て世代が住みやすいようにとか、国交省のほうでそういった形の補助を考えているというのもありましたけれども、そういったのにも絡めてでも、ぜひ提案——一つの、私は人口減少対策の一つになるんじゃないかなと思います。通るか通らないかは別としても、提案をしていただきたいというふうに思います。

東川登のサービスエリア、将来的にスマートインターになってくるのかなというふうに、なったほうがいいなと思ひまして、なってくるのかなと思いますけれども、私はやっぱり東川登とかも交通の便がいい部分もありますので、そういったところに住宅地、ニュータウンとかの整備をするというの、一つ、人口減少対策としてあるんじゃないかなというふうに思うところはあります。

これはちょっと私の見解です。

次に、ボランティアという面で伺います。

市やまちなどにおいても、様々な事業の中で活動のボランティアを募集されています。

そこで質問ですが、このボランティアの募集に対し確保状況はどのようにあるか答弁をお願いいたします。

○議長（吉川里己君）

秋月総務部長

○秋月総務部長〔登壇〕

おはようございます。ボランティアの募集については、各担当部署において必要に応じて広報誌やSNS等を通じて行っており、自主的参加、行動を主としているため、募集する際に、多くの場合は人数の指定をせず行っている状況です。

そのため、募集いただいた人数の中での対応となっておりますので、人数が確保できているのか、いないのかまでの把握はできておりません。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

実際にボランティア関係の人から、なかなか確保が難しいと。ボランティアで動いている方がそういったことも言われていました。

そういったこともあっての質問なんですけど、それ以外でも、実際に市民協働のまちづくりとして、ちょっと武雄町のまちづくりの会議の中でも意見として出た部分もあるのですが、市民の方にサポーターとして登録してもらおう仕組みをつくってはどうかと、こうした意見もありました。

私も納得するところでした。というのが、概要としては、例えば観光ボランティアをとか、そういう特化した形じゃなくて、何かのときに提案をしますから、そのときにこれだったら手伝ってもいいですよというふうな、そういった形で登録していただく市民の方を募るボランティア、市民サポーターの登録制度というふうなところできないかなと。

もちろん全世代で登録を募集するというのを考えるんですけども、特に考えるのは若い世代ですね。というのが、これだったら手伝いできるとか、そういうふうな気軽な形でまちづくりとか、まちの活動に参加することによって、市とかまちに触れる機会になる。また、愛着にもつながる、郷土愛の醸成というところにもつながって、そういったことが思い出になったりとかして、武雄に住みたいとか、武雄に戻ってきたいというところにもつながる一つにもなるんじゃないかなと思います。

例えば武雄温泉春まつりとかも、武雄中学校の生徒の皆さんがいろいろお手伝いをしてくれたりとかあります。武雄町盆踊りに関しても、飛翔倶楽部たけおの子とか、ジュニアリーダーの子が運営の手伝いをしてくれたりとかという部分もあります。

広くいろんな地域で見たら、そういった関わりがある部分もあると思うんですが、そこを制度としてすることによって、幅広く、もっとまちづくりに参加する子供たち、そういったところにつなげていく。それを人口減少対策に将来的には結びつける。その考えとして考えるところでもあります。

この市民サポーター制度としての取組について、どのように考えるか答弁をお願いいたします。

○議長（吉川里己君）

秋月総務部長

○秋月総務部長〔登壇〕

今、議員おっしゃられました市民サポーター制度についてですが、今、この部分については、特にボランティアをしたい人と、それとボランティアをしてほしい人を結びつけていくことの、大変有意義な制度ではないかなということを感じております。

他方、今、若い人たちの参加という話も出ましたけども、その分では、現在市では武雄高校との協働によるまちづくり参画事業や、佐賀大学、九州大学との連携協定を協定し、若い世代が地域まちづくりに携わっていける事業を実施しているところでございます。これらの活動も拡充し、さらに若い世代が地域との関わりを増やしていくような事業を充実させていきたいとも考えております。

先ほどの制度になりますけれども、この分については、他の自治体でも実践されているということも聞いておりますので、その運用状況等の情報収集を行って、どんなことができるのか、まずはまちづくり事業に参加できる、よりよい仕組みづくりについて研究をしてみたいと思っております。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

行政関係で言えば、人口減少社会において行政職員さんも人数が減っていく部分はあるかもしれません。

そういった中で、行政職員さんだけで全てを行うというのなかなか大変な部分もあると思いますし、そういったときに市民協働というところもあると思います。

また、地域においてもいろんな活動において、やはり、例えば区長さんとか公民館長さんとか、役を持たれている方が率先してというのもあると思うんですが、なかなか大変だと思うんですね。そういった方たちもいろんな役割を持たれているので。

昔、地域の重鎮の方が言われましたけれど、昔は夏まつりは青年団が担ってやよかったものと、そういった話もありました。

やはりまちの若い人たちが、そうやってまちに関わることによってまちを盛り上げて、またそのまちを守っていこうとする、そういった流れをつくっていく。その一つの仕組みとしても考えられるのではないかと思います。

最後に市長の見解をお願いいたします。

○議長（吉川里己君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

今回、人口減少対策ということで上げていただいておりますけれども、人口減少に対しては自然増減と社会増減があつて、武雄は社会増減が課題ですと。これは国からも言われています。

社会増減は、要は、人口流出をどれだけ減らすのか、そして人口流入を増やすのか、この2つなんですけれども、特に流出を防止するということで、若い人に若いときから地域に関わってもらふ、まずは知ってもらふというのは、これは大変大事なことだと思っております、さっきの答弁でもありました、まちづくり参画事業というのを2017年からスタートしているところです。

やっぱり以前と比べて若い人がまちに、そういう意味で、行政主導の部分では関わった部分は増えていると思っております。やっぱり若い人がまちに来ると、まちも人も元気になるなというのも実感しています。

その事業というところ、まちづくり参画事業にこだわるのではなくて、私もやっぱりその裾野をどうやって広げていくのかなというのは同じ課題であるというふうに思っています。

そのサポーター制度という形が、私もちょっとそこは調べてみないと分からないのですけれども、いいのかどうか。もっとう、とにかくあまりハードルを上げずにですね、——多分同じだと思うんですけれども、ハードルを上げずに、やっぱり気軽に明るく楽しく関わってもらえるような、そんなきっかけづくりをどうやっていけばいいのかというのは、サポーター制度の調査も含めて我々もしっかり調べて今の流れに沿っていますので、そこについては何かしらの仕組みづくりは取り組んでいきたいと考えています。

○議長（吉川里己君）

8番豊村議員

○8番（豊村貴司君）〔登壇〕

市長も言われたように、あまりハードルを上げ過ぎず、気軽に参加できるような形というのが、これだったら参加できるなというふうなところ、裾野を広げるというところにつながると思います。これだったら親子で参加してみようかなみたいな形になったりとか、そういうふうな形で仕組みづくりをしていただければと思います。

なかなか思いはあってもきっかけがなかったら踏み出せないというところもあると思いますので、そのきっかけをつくる、提案していく、そういったことを大人たちがやっていくと。そういったこともあっていいと思います。

ぜひとも、今後の動きについて私も見ていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

それでは、私の一般質問を終わります。

○議長（吉川里己君）

以上で8番豊村議員の質問を終了いたします。

ここで、議事の都合上、10分程度休憩いたします。

休 憩	10時50分
再 開	10時59分

○議長（吉川里己君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、7番朝長議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。7番朝長議員

○7番（朝長 勇君）〔登壇〕

（全般モニター使用）こんにちは。議長より登壇の許可をいただきましたので、ただいまより7番朝長勇の一般質問を始めさせていただきます。

今回は大きく4項目について質問をさせていただきます。

早速質問に入っていきます。

まず、官民一体型学校の今後についてということですが、官民一体型学校の取組が10年の節目を迎えるということで、先週、私も御船が丘小学校の支援員として行かせていただきました。本当に、子供たちの元気な姿とか、あと、地域の方との交流の時間も取れるという、非常にいい取組かなと思って帰ってきたところですが、続けるには費用的なものもあるということで、今後ですね、3年間の、何というんですかね、継続期間といいますか、これは検証期間を設けるということになっているようですけれども、この辺の事情についてよく分からないというような声もちょっと届いておりましたので、区長会などには説明もあっているかと思えますけれども、その辺の——まず、3年間をまた経過措置として取り組むということについて、そう決まった経緯についてをお伺いします。

○議長（吉川里己君）

古賀こども教育部長

○古賀こども教育部長〔登壇〕

官民一体型学校についてでございますが、これまで、5月いっぱい全町の区長会の皆様への御報告というのは、一応させていただいております。

この官民一体型学校のこれまでの経緯ということですが——モニターのほうをお願いいたします。（モニター使用）花まる学習会との連携協定によりまして、平成27年度から取組を行いまして、今年度で協定の期間が満了、10年になるというところでございます。

これに伴いまして、昨年度、学識経験者、教職員、地域の団体の代表者の皆様に構成する官民一体型学校評価委員会を設置いたしまして、多角的な現状分析はもとより、児童・教職員、また地域の方等のアンケートや卒業生の意識調査などを基にこれまでの評価と今後の在り方について取りまとめを行っていただいたところでございます。

まず、提言の内容につきましては、事業の評価と本事業の設立趣旨、「たくましく自立できる人間を育む」という視点において、効果が一定あるというふうに認められるというふうな

御報告をいただきました。これは現学習指導要領に掲げる、「生きる力」を育む、にも通じるものであるというふうを考えております。

また、一方で、子供たちや学校を取り巻く環境が10年間で大きく変化をしているところがございます。課題や環境の変化に合わせた事業の見直しと、引き続き多角的な効果の測定を行いながら、継続をするという場合におきましては、おおむね3年をめぐりに事業の検証が必要であるというふうな内容での御提言をいただいたところでございます。

これを受けまして、教育委員会といたしましては、学校の方針を尊重し事業の見直しを行いながら、3年間、協定の延長をしたいというふうに考えたところでございます。

○議長（吉川里己君）

7番朝長議員

○7番（朝長 勇君）〔登壇〕

これは地域の方の協力が欠かせないということで、いろんな評価もあろうかと思えますけれども、今後、継続するのかどうかということ、どういった手順で誰が決めるのかといった仕組みについて、ちょっと説明をお願いします。

○議長（吉川里己君）

松尾教育長

○松尾教育長〔登壇〕

モニターをお願いします。

（モニター使用）議員御指摘の今後の進め方についてでございますけれども、まずは現在行っております全ての学校で一律の取組形態というのを変えまして、学校が抱える課題、あるいは環境を踏まえてですね、この画面の左端に①というのがありますけれども、各学校の教育目標を掲げる、目指す児童像、あるいは児童の成長という視点で、8月を目途に、実施するか否か。そして、②事業内容の検討、あるいは、③地域の支援を必要とするのかどうかというあたりを、8月を目途に各学校で決めていただくということで考えております。

そして、その隣の④ですけれども、地域の支援が必要というような判断をした場合は、9月あたりに各町で支援の在り方等を協議していただくというようなことで、9月ぐらいである程度の――各学校が、するかしないか、するとしたらどういう内容をしていくのか、あるいは、した場合、地域の支援が必要なのかどうかというようなあたりで検討をしていただくということで進めていきたいと考えております。

○議長（吉川里己君）

7番朝長議員

○7番（朝長 勇君）〔登壇〕

最終的な判断として、各学校でというのは校長の判断ということですかね。

はい、分かりました。

教育をどう評価するかという、成果を見るというのは非常に時間がかかって難しいことかと思えますけれども、やはり、まずは子供たちの成長のために何がいいかという観点でしっかり評価をして取り組んでいただければと思います。

それでは、続きまして、コロナワクチン臨時接種終了後の対応についてということで、これまでもコロナワクチンの危険性、リスクについて、度々取り上げてきたところですが、いまだに、ワクチンを含むコロナ対策が本当に効果があったのかどうか、副反応被害者の原因究明など、十分に行われないうまま、秋からまた定期接種が始まるということになっているようで、ちょっと懸念を抱いております。

今年の3月でワクチンの特例臨時接種が終了するというので、まだ残ったワクチンがあったということで、これについては有効期限内であっても使用できない、速やかに廃棄するという指示が出ていたようではありますが、武雄市において廃棄したワクチンの量、また、それを薬剤費として金額に換算した場合、幾らぐらいになるのか、これについてお尋ねいたします。

○議長（吉川里己君）

馬場福祉部理事

○馬場福祉部理事〔登壇〕

武雄市にて、事業終了により廃棄したワクチンの数ですが、1,039本であります。

特例臨時接種において使用したワクチンは所有権が国に帰属しておりますので、国から配送されていたことから市においてワクチンに係る費用負担はありませんでした。それに伴い、ワクチンの薬剤費用は不明であります。

○議長（吉川里己君）

7番朝長議員

○7番（朝長 勇君）〔登壇〕

ワクチン1回分の費用というのは正確には公表されていないかと思えますけれども、財務省等の資料、総額から回数分を割り戻すと1回当たり3,000円弱ぐらいになっていたようです。

マスコミ報道等によると、日本全国で廃棄されたワクチン、捨てられたやつが2億4,415万回分で、6,653億円分が廃棄されたということになっておりますけれども、そもそも、まだ使えるはずのワクチン、これを捨てなければいけなかったというのは何か理由があるんでしょうか。

○議長（吉川里己君）

馬場福祉部理事

○馬場福祉部理事〔登壇〕

ワクチン廃棄については、令和6年3月11日付の国からの通知で、有効期限の到来前の適

切な廃棄について指示があったことにより廃棄をしております。

廃棄の理由については把握しておりません。また、県においても同様に通知以外での把握はしていないということでした。

○議長（吉川里己君）

7 番朝長議員

○7 番（朝長 勇君）〔登壇〕

廃棄の理由は分からないということで、いろいろ、逆に勘ぐってしまうところもあるんですけども。

3月議会でも紹介しましたがけれども、ワクチン接種後の健康被害、給付金ベースで見るときにまだまだ増え続けているということで、3月議会で紹介したときは453人ということで申しあげましたがけれども、既にもう500人を超えているというような状況のようです。

以前なかなかマスコミ報道で取り上げられなかったこのワクチンの健康被害というのが、徐々に知る人が増えてきた。そして、自分の体調不良、なかなか体調がよくなる、悪いという、それが原因がワクチンじゃないかと、今までそういう発想を持てなかった人が救済制度を申請するという人も増えてきているようです。

この廃棄されたワクチンと健康被害の給付金、これだけ合わせても7,000億円の予算が使われているという状況で、そもそも、これまで私も継続的に取り上げてきましたけれども、多くの専門家がその危険性を指摘したにもかかわらずワクチン接種がずっと続けられたと、その回数が増えるたびに感染者数の波も大きくなっていったということで、非常に問題が大きかったのではないかと考えております。

その背景について、このグラフ見て分かるように、札幌医科大学医学部附属がん研究所ゲノム医科学部門のデータでは、もう日本だけなんです、4回も5回も6回も打っているのは。ほかの国、100人当たりの接種回数ですけども、一番、日本以外で多いのが韓国で、100人当たり80回ぐらいと。もうその倍ぐらい、日本だけが打っているということで、本当に何でこうなったのかと。やっぱりほかの国は、そういうマイナスの、デメリットのほうもしっかりと情報開示をして、リスクのほうも開示して、国民がもう打たないほうがいと判断してこういうグラフになったと。

じゃあ、何で日本だけがと、いろいろ情報を集めてみたわけですけども、そのワクチンの健康被害といいますか、有効性や健康被害について審議される審議会があつておまして、厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会というところで、これがもう、臨時接種が行われていたときは毎月——今は3か月に1回開催されているんですけど、もう毎回、とにかく健康被害の件数にかかわらずワクチン接種が継続されてきたと。

ワクチン接種体制に影響を与える重大な懸念は認められないという、判で押したような、問題なし、問題なしということで、そういう判断が繰り返されて、ワクチン接種回数が日本

だけ伸びてきたということです。

例えば、その中身をちょっと調べてみたんですけども、今年の1月26日に審議会が開かれています、その委員さん14名のうち8名、参考人6名のうち3名が——過半数ですね、20人のうち11名と。製薬会社から寄附金などの金銭の受け取りがあるということ。こういう方がワクチンのリスクについて審査を行っているということで、非常に、やはりこの審議会の在り方に問題があるのではないかと感じました。

おまけに、武見厚生労働大臣も、この審議会の判断を尊重するんだということの一点張りでおっしゃっているんですけども、この武見厚生労働大臣自体も日本医師連盟とか医療界から多額の献金を受けられている立場だということで、そういうお金の流れというところから見たときに、何か問題があるのではないか、中立的な判断ができているのか、本当に国民の健康を守るためにしっかりと判断をしてもらっているのか、非常に疑問を持たざるを得ない、そういう状況がありました。

こういうことは、やはり審議会が、専門家が大丈夫と言っているからと、ただそれをうのみにするのは非常に危険だなと思ったところです。

今後、また、この副反応被害について申請等もあってくる可能性も大きいとは思いますが、実際そういう申請者が出たときに、この接種記録、製造番号とか、地域によっては、その死亡者が打ったワクチンのロット番号が偏っているというような情報もあります。

そういったのを踏まえて、接種記録というのはいつまで保管されるのかということをお尋ねいたします。

○議長（吉川里己君）

馬場福祉部理事

○馬場福祉部理事〔登壇〕

接種記録の保存期間についてですが、国が示している新型コロナウイルス感染症に係る予防接種の実施に関する手引きにおいて、少なくとも5年間と定められているため、紙の媒体については適切に管理、保存しまして、健康管理システムでもデータの管理を行っております。

○議長（吉川里己君）

7番朝長議員

○7番（朝長 勇君）〔登壇〕

まず、紙については5年ということで、データとしてはかさばらないし、保管するのは問題ないと思いますので、ぜひ消去等をせずに長期間保管をしていただくようお願いいたします。5年、10年たって、やはり影響が出てくるという場合もあると思いますので。

それで、秋からの定期接種が始まるということで、これまでのワクチンは全て廃棄されて、どういったワクチンが使われるのか分かりませんが、いろいろ調査していると、遺伝

子情報を人間の体の中でどんどん増幅していくというレプリコンワクチンというんですかね、自己増殖する、打った成分、遺伝子情報がもう自分で増えていくという、何か非常に、聞いただけで怖いんですけども、そういうのがもう臨床試験終わってというか、日本だけ認可が下りているというような情報があるようです。

これについても、ある専門家の中では、臨床試験が十分に行われていないと、そういうワクチンはもう日本だけと。ほかの国は承認が下りていないわけですね。

そういった状況もあるようですので、今後のワクチンの定期接種に関しては医師のほうで選択されるかもしれませんが、その医療機関とも連携を取りながら、こういった情報をしっかり交換しながら注意しておいていただきたいと思います。

それでは、次に行きます。

地方自治法の改正についてということなんですが、5月30日に、大規模な感染症や災害が起きた際に国が地方自治体へ対応を指示できるようにする地方自治法改正案が衆議院本会議で可決されました。

内容としては、「国民の生命等の保護のために特に必要な場合」は、個別法の規定がなくても国が地方に対して必要な指示を出せるようにするというような内容になっているんですけども、この、特に必要な場合というのは非常に条件が曖昧で、こういった状態で——簡単に言えば自治体の裁量権が制限されるわけですね。自治体独自の対応ができなくなるというような懸念もされています、野党のほうからはですね。非常に恣意的な運用がされるのではないかという懸念も出されているようですけれども、この改正案について、現時点で小松市長のほうはどういった認識を持たれているかと、見解をお尋ねします。

○議長（吉川里己君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

まず、当然ですけれども、地方自治の本旨を損なうことがあってはならないというふうに考えております。

国民や市民、住民の命を守ることが当然大前提で、どう政策を取り組んでいくかということところだと思っておりますけれども、現在、法案が審議されておりますけれども、それ以前にですね、例えばこの前のコロナウイルスの感染とか、そういったところの対応をしっかり総括をして、まずはできる限り個別法で改正をしていくというのに、まずは早急に取り組んでいく必要があると思っています。

その上で、それでも想定できない事態にどう対応するかということで、今回、この改正法が出されていると思うんですけれども、ここについては衆議院の附帯決議が採択されましたように、事前に地方公共団体に十分な協議と調整を行っていただいて、そして現場の実情を踏まえた措置をしっかりと取るということをですね、私からも強くそこはお願いしたいと、そ

のように考えております。

○議長（吉川里己君）

7番朝長議員

○7番（朝長 勇君）〔登壇〕

私が何を念頭に置いているかということ、前回3月に、世界保健機構（WHO）のほうでパンデミック条約の話が進んでいるということで、もう何がパンデミックなのかというのを、定義がないまま条約の話が進んでいるということで、これに反対するですね、この前、4月13日には、非常に国家の主権が侵されるんじゃないかということで、反対のデモ運動等も行われているわけですが。

WHOというと、いかにも何か公的な機関のようですが、いわゆるワクチンを推進するような団体からも巨額の資金が出されていて、非常にWHOの局長さんが、これはもうパンデミックかもねと言えばパンデミックになるわけですね、単純に。もうそんな話なわけですよ。基準がないと。

その後、結局、各国の主権が制限され、その下でこの地方自治法改正によって、自治体ごとの柔軟な対応もできなくなるんじゃないかと、そういう、いわゆるWHOの判断で、全て世界中が拘束されるというような、そんな事態になるんじゃないかと非常に心配してはいるところです。

杞憂に終わればそれでよしという話でもありますので、ぜひ小松市長においては、近隣の首長さんとかとも情報交換等をしながら注視しておいていただきたいと思います。

続きまして、地球温暖化対策・再生可能エネルギーについて入っていきます。

地球温暖化対策ということで、武雄市でも令和3年12月にゼロカーボン実行計画が策定されておりまして、二酸化炭素排出量の削減目標として、まずは2030年までに46%削減、2013年を基準にしてですね。そして、2050年までに実質ゼロを目指すということがうたわれております。

当面の目標として、2030年までに46%削減ということですが、あと5年ほどですが、これは実現可能なんですか。見通しについて、まずお尋ねいたします。

○議長（吉川里己君）

弦巻まちづくり部理事

○弦巻まちづくり部理事〔登壇〕

本市のゼロカーボン実行計画の43.7%までの実現は可能かということでのお尋ねでございますけども、この目標は、人口減による活動量の自然減43.7%に加え、46%を目指すものでございます。

今後、市の取組、御家庭や事業者におけるごみ減量化や再資源化、森林保全など、二酸化炭素の排出抑制に取り組んでいただくことにより目的が達成されるものと見込んでおります。

○議長（吉川里己君）

7 番朝長議員

○7 番（朝長 勇君）〔登壇〕

既にマイナス 43.7% ということで、これを、武雄だけの話じゃないですけど、内情を見ると、削減努力をしたかなというよりは、景気が悪くて経済活動が停滞しているから排出量が減ったという要因のほうが多いようで、喜んでいいのかどうか非常に難しいところですが、そもそもこれを評価するということが自体が難しいのかなと思っておりますが。

その前に、そもそも地球温暖化の原因について、これは専門家の間でも意見が分かれています、CO₂が原因だという説だけが非常に取り上げられているわけですが、数百年、数千年という長い期間で考えたら、地球の気温というのは上がったり下がったりずっとしてきているわけですね。

今の温暖化と捉えるにしても、そういう自然な波の範囲で収まっているということで、特にCO₂が原因ではないと。自然な気候変動の範囲に収まっているというような見解もあります。

仮にCO₂などの温暖化ガスが原因だとして、日本全体で 2050 年までに、いわゆるこの目標ですね、実質ゼロを達成したときに、温暖化を食い止める効果がどれくらいあるんでしょうか。

○議長（吉川里己君）

弦巻まちづくり部理事

○弦巻まちづくり部理事〔登壇〕

日本の二酸化炭素の排出量につきましては、2021 年時点で世界全体の 3 % であると出されております。

二酸化炭素の排出量の削減は、世界的な取組として、気候変動抑制に関する国際枠組み条約、いわゆるパリ協定と呼ばれるものでございますけども、こちらに加盟する国々と一緒に推進をしていくものでございます。

その目的は、世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて 2 度より十分低く保つことで、1.5 度以下に抑える努力をするということにされておまして、武雄市においても、計画に示す目標や取組を推進、実施することで地球温暖化を食い止めることができるものとして、今後努力していくことで考えております。

○議長（吉川里己君）

7 番朝長議員

○7 番（朝長 勇君）〔登壇〕

結局、日本が排出ゼロを達成して何度下がるのかというのは、何か分かったような、分からないような感じでしたけれども、さっきも出ましたけども、世界の中で日本の排出量、二

酸化炭素、そもそも 3.2%で、世界的な取組と言われますけれども、一番大きいのは中国で 28.4%、アメリカが 14.7%、この 2 か国だけで 43.1%ですけども、この一番大きな 2 か国で全然排出量減っていないわけですね。

簡単に言うと、真面目にやっているのは日本だけなんですよ（笑い声）真面目にやっているのは。ほかの人は、もう、特に中国とかは全然そんな、いや、途上国等だからまだ免除みたいな感じで、簡単に言うと、一番、生真面目に取り組んでいるのは日本ではあるんですけども、取り組むのはいいんですけど、そのために巨額の投資をしているということですよ。

そこで、公的な機関でなかなか、これ、日本がゼロにしたときに何度下がるのかと、なかなか出てこないわけですけども、こういう民間のシンクタンクといえますか、非政府の有志による第 7 次エネルギー基本計画というのが出されておまして、これは専門家って、科学者とか大学教授とか、代表としてはキャノングローバル戦略研究所研究主幹の杉山大志さんとか 16 名の方が出されている基本計画なんですけれども、この資料によると、日本がたとえ二酸化炭素排出量実質ゼロを達成したとしても、地球の気温を低下させる効果は 0.006 度ということで、もしこれを達成しようとするれば、物すごい投資が必要になるわけですよ。

それに、sonだけ巨額の、今、GXですか、グリーントランスフォーメーションとかいって、物すごい予算を組んで投資をしようとしていますけれども、途方もない費用がかかる割には、気温低下や降水量減少による便益というのは事実上ありませんと。何もならないという研究結果が出ております。

さらに、太陽光発電に関しては、大量導入をもう停止すべきだということで、その理由として計画書の中に書かれておるのが、そのまま読みますと、太陽光発電には人権問題、経済性、災害時の安全性などの多くの課題があり、日本が国策として実施してきた大量導入は直ちに停止する。世界の太陽光パネルの 9 割は中国で製造されており、その半分は新疆ウイグル自治区による……（発言する者あり）工程に関係していると言われている。米国などでは、強制労働への関与の疑いがあるとして、輸入禁止措置が既に取られていると。

また、太陽光発電は間欠的であるという根本的な問題があり、既存の火力発電設備などに対して二重投資となるため、経済性は本質的に悪く、国民経済への大きな負担が既に発生している。

地震や洪水の際には、破損しても発電を続ける特徴があるために、避難、救助などに際して、感電による二次災害が発生するおそれがある。

中国で製造された太陽光発電は、製造時に大量のCO₂を発生し、また、メガソーラーは森林を伐採して設置するため、ここでもCO₂が発生するというので、非常に太陽光発電の大量導入に関して、簡単に言えば、もうやらないほうがいいというような提案がされています。

今回の質問というのが、こういった情報を踏まえて、太陽光発電の推進に歯止めをかけるべきではないかという問題意識の上で取り上げております。

ゼロカーボン実行計画の中での施策を見ると、③番と④番に、緑があふれるまちづくりと、再生可能エネルギーの推進という項目が挙げられていますが、程度の問題ではあるんですけども、森林を伐採してメガソーラーを設置するような開発というのは、逆に環境破壊につながるということで、計画の趣旨からもずれていくだろうと思っておりますが、この辺についてはどういう認識を持たれておりますか、執行部としては。

○議長（吉川里己君）

弦巻まちづくり部理事

○弦巻まちづくり部理事〔登壇〕

再生エネルギーにつきましては、こちら実行計画にも挙げておりますように、当然、今後、ゼロカーボン実行計画を実現していく上では不可欠だというふうに考えております。

○議長（吉川里己君）

7番朝長議員

○7番（朝長 勇君）〔登壇〕

要は、太陽光パネルそのものを否定するというよりも、山林を伐採して、大規模に山を削ってやるような、非常に今、全国各地で問題になっているというのがあります。

例えば、ちょっと古いかもしれないですけど、2022年の9月9日の西日本新聞ですね。5万枚のパネルに囲まれ、メガソーラーから濁流と。命の危険を感じて転居ということで、記事が。福岡県の飯塚市で、これが転売の末に外資が進出をしているということで、これ飯塚市の白旗山というところなんですけど、これ衛星写真ですね。グーグルアースからちょっとお借りしてきましたけども、住宅地にもう密接して大規模なソーラーパネルが設置されていて、ここから雨が降ったときに濁流が住宅に流れて引っ越されたということです。こういう状況には、武雄にはなってほしくないなという思いもあって質問をしております。

この問題については、農林水産省OBの、姫路大学特任教授の平野秀樹さんという方が書籍で取り上げられておりますが、日本各地で外国資本による土地の買収が進んでいて、環境だけでなく、例えば自衛隊基地の上の山を買われるとか、安全保障の面でも非常に大きな問題が起きていると警鐘を鳴らされています。

なぜ外国資本が進出してくるかといえば、もうかるからですよ。なぜもうかるかというと、電気の買取り価格が保障されていて、その割高な電気代の分を私たち市民、国民が負担しているという、そういう構造になっているわけですね。

これは5月23日、佐賀新聞の記事からお借りしましたが、電気料金の値上げと。最大46.4%、九電は43.8%ということで、非常に何でも値上がりする中で、市民の生活が非常に今後苦しくなっていくんじゃないかと思っておりますけども、心配しておりますけども、その中

の記事の中で、再生可能エネルギー普及に向け、電気料金に上乗せする賦課金が4月に引き上げられたことも影響したということで、この負担したお金は結局そのソーラー発電の事業者が持って行くわけですね。

やればやるほど電気代も、賦課金も増えていくということで、非常にこういった経済の面でも大きな問題があると考えています。

結局、二酸化炭素を減らす効果もないわけですね、基本的に。気温上昇を防ぐ……（発言する者あり）効果もないと。それでこの市民のお金だけが外国企業に吸い上げられていくと、こんな仕組みが出来上がっているということです。

これに関して、自然と調和ということで、武雄市では令和4年1月11日付で、武雄市自然環境等と太陽光発電事業との調和に関する条例が施行されているということですが、その背景として、事業用太陽光発電設備の設置が原因とされる土砂災害や、災害につながりかねない事案の発生、また、近隣住民への説明や調整が不十分でトラブルとなった事例が報告されていますと書かれているんですけども、これは条例制定前に武雄市内でトラブルがあっていたということでしょうか。

○議長（吉川里己君）

弦巻まちづくり部理事

○弦巻まちづくり部理事〔登壇〕

条例の施行前の件でございますけれども、条例前におきましては、市内におきまして太陽光の発電事業地の開発に伴い、土砂災害が懸念された事案が1件、それと、設備からの騒音の相談が1件というふうに、その2件を把握しております。

○議長（吉川里己君）

7番朝長議員

○7番（朝長 勇君）〔登壇〕

把握している分で2件ということですけど、この条例ができてからそういった問題とかが発生したということは把握されているのでしょうか。

○議長（吉川里己君）

弦巻まちづくり部理事

○弦巻まちづくり部理事〔登壇〕

条例の制定後につきましては、昨年、既設の設備におきまして、雑草繁茂の件が相談がございまして、事業者への指導を行い、対応していただいております。

○議長（吉川里己君）

7番朝長議員

○7番（朝長 勇君）〔登壇〕

この条文の中を見ていくとですね、面積が1,000平米以上の太陽光発電設備の場合に届出

をするというようなことになっていると思いますけれども、この届出件数は何件あるのでしょうか。

○議長（吉川里己君）

弦巻まちづくり部理事

○弦巻まちづくり部理事〔登壇〕

条例施行後の届出件数でございますけれども、条例施行後は、1業者2件の届出が出されているところでございます。

○議長（吉川里己君）

7番朝長議員

○7番（朝長 勇君）〔登壇〕

1,000平米以上についてはこれで把握できると思いますが、1,000平米といたらそれなりの広さですけども、これ以下、例えば900、700、800とかいうぐらいでも、それはかなりの広さになるかと思えますけど、1,000平米未満の開発については把握できているのでしょうか。

○議長（吉川里己君）

弦巻まちづくり部理事

○弦巻まちづくり部理事〔登壇〕

条例では1,000平米未満の太陽光発電設備は対象としていないため、正確には把握ができておりません。

○議長（吉川里己君）

7番朝長議員

○7番（朝長 勇君）〔登壇〕

あと、条件として、地元の区長さんの同意とか、市長への同意が必要とあるようですがけれども、そもそもですね、届出について市長の同意が必要と、市長というか執行部で判断するということでしょうけども、破損した場合の感電リスクとか、有害物質の流出とか、そういった危険性については認識はできているのでしょうか。

○議長（吉川里己君）

弦巻まちづくり部理事

○弦巻まちづくり部理事〔登壇〕

開発による土砂災害などの影響につきましては、太陽光発電設備に関する災害というのが、土砂災害であるとか、景観の悪化など、よその事例とか報道がございますので、理解しているところでございます。

○議長（吉川里己君）

7番朝長議員

○7番（朝長 勇君）〔登壇〕

土砂災害というよりも、そのパネルそのものですね。

例えば維持管理ができていないパネルが大雨で浸水したときに感電するリスクとかですね、それとショートして、太陽光パネル自体が火災の原因になるということもあっているようですが。あと、壊れたときに内部の成分が、カドミウムとか鉛とか、有害物質が含まれているようですけれども、そういったリスクについてはいかがでしょうかね。

○議長（吉川里己君）

弦巻まちづくり部理事

○弦巻まちづくり部理事〔登壇〕

そちらのほうにつきましても、資源エネルギー庁のほうから注意喚起がなされておりますので、そちらを拝見しているところでございます。

○議長（吉川里己君）

7番朝長議員

○7番（朝長 勇君）〔登壇〕

行政として把握はできているということであったとしても、例えば、それに地元の区長さんの同意、地元区なので、多分、区長さんになるかと思うんですけれども、そういったリスクを分からない状態で同意してくださと言われてると、後からですね、ああ、そがんとは知らんやっばいというようなことにもなりかねないですよ。

そういう意味で、地域の役職を持たれている方とか、その地区に関係する方、そういった方にもですね、そういう危険性の部分についてはしっかりお伝えしておかないと危険だと思うんですよ。

例えば台風で飛んできたパネルに、あれは割れても発電を続けるということのようですので、それを子供が触って感電したとかいう、そういったリスクを市民の皆さん、区長さんとかへ伝える、こういった対応が必要かと思うんですけど、これについてはどう認識されていますか。

○議長（吉川里己君）

弦巻まちづくり部理事

○弦巻まちづくり部理事〔登壇〕

こちら、太陽光発電設備の予定地区での事業者の説明会でも、住民の方からの不安解消のための質問や要望等を出されておまして、市民の方についても危険性の説明を行い、理解を求めていただけるようお願いしております。

また、事業者からの申請届出時に、近隣関係者への説明に代える報告書も提出をしていただくようになっておりますので、しっかりチェックをしたいというふうに考えております。

○議長（吉川里己君）

7番朝長議員

○7番（朝長 勇君）〔登壇〕

これ、元旦の能登半島の地震でもこういう事例が実際出ている、土砂崩れでソーラーパネルも一緒に崩れて落ちてきてと。幸い、事故にはつながらなかったようですが、いや、そういう危険性があるのは、周りの人は誰も知らなかったというような、実際、実態があるようですので、同意の判を押す前に、そういう説明をしっかりと、情報を提供して、分かった上で同意してもらうような手順にしたいと思っています。

あと、これも危険性について、草が生えて維持管理がうまくできていないと、漏電とか感電とかリスクがあると思うんですけど、維持管理のところで、保守点検等の計画に基づき適切に管理することと、文章としては書いてあるんですけども、これをチェックできているのかと。確認する仕組みがあるのか、これをお尋ねいたします。

○議長（吉川里己君）

弦巻まちづくり部理事

○弦巻まちづくり部理事〔登壇〕

条例では、発電設備に異常が認められたとき、また、自然災害とか人為災害による被害が発生、またはおそれがある場合とか、そのほか、事業区域及びその周辺に、生活環境に及ぶおそれがあると認めた場合には、事業者へ速やかに工事、また、報告書の提出、条例の範囲内ではございますけども、職員の立入調査を求めることができるというふうにされております。

また、緊急連絡網の設定であるとか、そういったところまで現在行っているところでございます。

○議長（吉川里己君）

7番朝長議員

○7番（朝長 勇君）〔登壇〕

これ、どうしてもこの条文があるだけでは、事業者任せというか、相手任せで、黙って、メンテナンスをしていないというのは、なかなか気づかない場合も多いかと思っていますので、そういった仕組み等もですね、こういう危険性を踏まえて充実させていただければと思います。

あと、先ほど紹介した書籍の帯にもありましたけれども、環境とか脱炭素という名目で、日本の山林が外国資本に買い取られて、金もうけのために乱開発が行われていると、そういう現状が実際にあります。

そして、その費用をですね、繰り返しになりますけど、賦課金という形で市民が負担して、外国系の企業がもうけだけ持って行くと。そういうのが実際に起こっているわけですね。

武雄市ではまだ少ないかもしれませんが、一旦始まると、開発業者というのはエリ

アを絞って一気に用地交渉とかをやってきますので、先ほどの飯塚の衛星写真でもあったように、もう始まったらだ一っと、あっちもこっちも開発が進んでしまうということで、一気に山が削られて景色が変わるといような事態にもなりかねないと、非常に心配しております。

要は、環境を守るという名目の裏では大きなお金が流れていると。そのお金が、誰が受け取っているかというところまでやっぱり考えて、事態をしっかり把握しなきゃいけないと思っております。

実際に、今年の8月31日に、福島市では、もう既にメガソーラーがあっちこちできて、これはいかんということで、もう危機感を抱いている自治体もあるわけですね。

それで、市民生活の安全・安心を守り、ふるさとの景観を宝として次世代に守り継いでいきたいと、そういう危機感を持って、ノーモアメガソーラー宣言というのを出されています。

飯塚市の例でも言いましたように、もう、いつ開発されるか分かんと思うと、やっぱり山の近くに住みたくないといような人も出てくると思います。

逆に、武雄市ではそういうメガソーラー、大規模な森林開発は制限しますよといような情報発信をするだけでも、安心して、逆に、じゃあ移住しようかなといような動機づけにもなってくると思いうすよね。

そうやって、武雄市はこういう方針で行くんだといのを発信する。それに反応する人が、そこでだったら安心して住めるかもしれないという効果もあると思っておりますので、今ここで宣言してくださいという意味ではなくてですね、そういう効果も考えて、どう対処していくのか。

問題が起こって、土地を買われてしまったらもう取り戻せませんので、事前に考えておくといのを、ぜひお願いしたいと思っております。

メガソーラーとは別ですけども、環境という意味では、今、唐津市のほうで洋上風力発電の構想が進んでおります。これに関しても、衆議院議員の秋本議員が入札に関する収賄で逮捕されるといような、非常にやはり、利権の構造といのがこの環境問題にはついて回ると。

唐津市としては推進されているようですけども、近隣の漁業組合の方たちですね、風力発電ってもう、高層ビルより高いような風車ですね、何百メートルといような風車が何十基も建つといことで、海底を非常に掘削して海を荒らすといことで、漁業組合の方たちが非常に、もう漁ができなくなるといことで反対運動をされているといような、非常に環境を盾として、再エネを盾として、環境が破壊されているといような現状があちこちで今出てきています。

実質的には、もう二酸化炭素排出ゼロにしても温暖化を食い止める効果はないといことが科学的にも出されているわけですね。

そういう意味で、移住促進というか、こういうまちなんだという、武雄市なりの個性を出す意味でも、こういうのを考えてみてはどうかと思うんですけど、最後に市長の見解を求めたいと思いますが、いかがでしょうか。

今すぐやってくれという話ではなくてですね。

○議長（吉川里己君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

やはり、先ほどありましたとおり、中国、アメリカ、入っていないというものの、パリ協定に日本も加盟しておりますので、そういった温暖化対策、ソーラーパネル以外にもいろいろあると思うんですけども、再生可能エネルギーを活用した温暖化対策という要請があるのは事実です。

一方で、先ほどからおっしゃっているように、環境保全とか、あと災害を防ぐといった、命を守ると、そういった要請もあるのも事実です。

やはり大事なのは、どちらかに偏る、野放図にするのではなくて、やっぱり持続可能な社会を考えた上では、やはりそのバランスをいかに取っていくのかというのが大事だと思っています。どちらかに一気にバランスが崩れるようなことがあってはならないと思っています。

そういう意味で、我々も先ほどお示しいただいた条例を策定したわけですが、いろいろと先ほどから御質問、御指摘を頂いておりますので、そこは住民の皆さんが、とにかく不安に感じないように、様々な方面から情報を収集して、我々もそういった両立をバランスよく図っていけるように、今後さらに取り組んでいきたいと考えております。

○議長（吉川里己君）

7番朝長議員

○7番（朝長 勇君）〔登壇〕

バランスを取ってということですが、それはそれとして、やっぱり外国資本の話をちょっと挙げましたけれども、非常に今、手口が巧妙になっていまして、ずっと転売、転売で、結局、所有者が分からないと。外国人であるかどうか調査ができないというような、そういうようなやり方で、非常に手口が巧妙になっているというような話もされていますので、しっかりその辺も、自治体として、ふるさとの自然を守るという意思を持って、関心を持ってチェックをしていただきたいと、土地の取引とかですね。

それをお願いいたしまして、私の一般質問を終わります。

○議長（吉川里己君）

以上で7番朝長議員の質問を終了させていただきます。

ここで、議事の都合上、1時20分まで休憩いたします。

休 憩	11時56分
再 開	13時20分

○議長（吉川里己君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、18番牟田議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。18番牟田議員

○18番（牟田勝浩君）〔登壇〕

（全般モニター使用）初夢で縁起がいいのは、分かりますよね。初夢を見て縁起がいいのは。これはふだんのときに見ても縁起がいいということなんですけども、富士山、一富士二鷹三茄子、四は分かりますかね。四は扇です。ぱたぱた扇ですね。五は煙、六ははげです。

一富士二鷹三茄子、四扇五煙六にはげと、これが縁起がいいということで、私も今日は縁起がいいように、市政にとって縁起がいいような質問をやっていきたいと思います。

18番、議長から登壇の許可をいただきました。一般質問を開始させていただきます。

今日の質問は、これは後の質問にも関係あるんですけども、これ表題で出しているのは、川内の棚田、タナディアンロッキーの田植時の様子を映しました。物すごく眺めもよくて、天気もよくて、棚田の維持にいろんなことを考えて、こういうふうにやっていただいている。

本当に田を維持するというのは、後で質問項目が入りますけども、大変なことだと思います。

すみません、質問に入ります。

質問に入りますけども、これは、1番は政策策定の手順について。

これは何でこういうことを出したのか。

3月議会に質問しました総合計画、マスタープラン、これを中心に、これを背骨として武雄市民の向上、いろんな施策をやっていただきたいと。これは自治体の変わらぬ背骨がなければならぬ。幾ら途中で自治法が変わろうとも、きちんとした策定、中心になるものがなくてはいけないということでやりました。

それともう一つ、これをつくった原因の一つというか、いろいろあって、例えば戸別受信機。戸別受信機の予算がこの議会で上程されました。

もちろん、議会は必要だということでそれを認可し、その後は、有線放送ということでこの議会に提出されました。

なかなか、市民の意見、我々の意見が入るところがなかった。

今度の、タクシー何ていいましたっけ、ライドシェアか。ライドシェアにしても、3月議会でも私自身も質問をし、そして、次は議案として出ている。

議案として出ていたなら、どこでどういうふうに市民が入れる、我々議会が入れる、そういうことがなかなか曖昧になってきたので、この質問を入れさせていただきました。

市長は、御案内のように、市の代表です。市長は市の代表です。市民の代表は我々議会です。ですから、市の代表が、市民の代表の議会、そして、市民に向けていろんなことを説明しなきゃいけない。そのプロセスの中で、少し、ちょっと何か抜けているところがあるんじゃないかと。そういう意味を込めて、この策定の手順についてというのを1番としました。

1、2、3、4、5と書いていますけれども、計画を策定するときに、まず、係で話し合う。こういうことやろうよと。

2番目に、これいいからと、課で話し合う。

3番目に、部も含めて話し合っ、副市長も含めての話合い。

これいいね、やろうねといったところで、俗に言う、基本計画ができて、予算もひよっとしてそこにつく、議会に上程される。懇話会ができて、パブリックコメントがあって、実施設計、予算が出てくると。

いつ市民の意見、いつ、その議会の意見というのがあるかもしれない、入れるのかというところをメインに聞きますけど、まずは流れという形で、今言った流れ。

例えば建設、何かをつくるというときに、実施設計、基本設計までやって、パブリックコメント、プロポーザル、懇話会、専門家を集めた懇話会があって、そこで話し合っ、議会に上程する。

この流れで間違いないのか。何か訂正するところがあれば言ってください。

まず、これを第1の質問といたします。よろしく申し上げます。

○議長（吉川里己君）

松尾企画部長

○松尾企画部長〔登壇〕

議員御質問の件ですが、総合戦略などの各種計画につきましては、それぞれの根拠法令に基づき策定するため、計画ごとに策定の流れが違いますが、多くの計画は、まずは担当課で市民への聞き取りや各種調査など、現状や課題を整理します。

それを整理して、案を作成した後、議員の皆様や市民、有識者などの御意見を計画策定の、組織された、先ほど議員がおっしゃられた懇話会との協議やパブリックコメントなど様々な手法でお聞きし、その意見を基に計画を策定させるというのが一般的な流れであります。

○議長（吉川里己君）

18番牟田議員

○18番（牟田勝浩君）〔登壇〕

今言われた流れできていると。

さっきの話に戻すと、もう予算を議会で議決した、もう次には、議案で出てくると。議案で出てきたら、もしその部分だけ反対だと、議案全体、予算議案全体を反対するしかないんですね。もしくは分割採択するしかない。

そういう中で、いかにこの間に市民に伝えられるか、その代表たる議会にきちんと伝えられるか、この意見のところですね、意見のところをいかに取り上げられるか。

さっき例で言いましたライドシェアというのは、今回予算が出ています。3月議会の途中まで、そのときの答弁では、まだまだというような、受けたんですけども、いきなり出てきた。途中で議会にそうやって、予算をつけますからと。

市民にも、新聞で知ったと。

もう全然、その協議をする時間がない。

もう一つ、大学の件は質問じゃないです。質問じゃないですけども、いろんところで聞いています。よその大学も行って聞きました。

一番は、市がお金を出すなら、市民のコンセンサスをまず取らなきゃいけない。

今正式に、例えば大学の説明会というのは、大まかに二、三回ですよ。市長はいろんなところを、総会とかなんとかで説明されていますので、正式には2回か3回です。

やっぱりそういうふうなコンセンサスを取るためには、やっぱり説明会をどんどんやらなきゃいけない。

これはさっき言われた、俗に言う実施設計が終わって、基本設計があるまでの間に我々の意見、市民の意見、市民への周知というのはされるということで受け取っていいですか。

そして、今言われました、さっき言いましたライドシェアの件にしても、全くそういうのはなかったですよ。

ぜひそういうのを変えて、きちんと聞いていっていただきたい。その辺をお伺いします。

○議長（吉川里己君）

松尾企画部長

○松尾企画部長〔登壇〕

一般的には、計画を完成させる前まで、市民、もちろん議員の皆さんを含め、御意見をいただくことは可能であります。

施設建築に関する基本設計や実施設計の場合は、基本設計から実施設計を行う間であれば、ある程度の御意見を反映することが可能であります。

○議長（吉川里己君）

18番牟田議員

○18番（牟田勝浩君）〔登壇〕

基本設計から実施設計までの間だったら変更も可能。

これは本当、最近の事例ですけども、私が何回か過去質問した、文化会館の今度の改装ですね。文化課の皆さん、本当に実施設計ができてからいろんな要望を聞かれて、変えていってもらっているような気がします。

餅は餅屋に任せると。きちんとやっぱり聞いて、餅屋の言うことをきちんと聞いていただ

いております。

やっぱりそういうことが必要だと思うんですね、大学にしても、ライドシェアにしても。今2つの例言いました。

戸別受信機のと きもあればよかったと。だから、この総合計画を背骨にそういうことをやっていく。

そして、今言った計画策定で市民に周知し、そして、議会にも周知し、いろんな訂正箇所、訂正意見を聞いて、これからもやっていただければいいと思いますけれども、よく分からないのが、このパブリックコメント。

パブリックコメント、いろいろされていると思います。今言った分でも大分やられたかもしれません。

その文化会館のパブリックコメント、大学のパブリックコメント、ライドシェアのパブリックコメント、いろんなパブリックコメントをやられていますけれど、議員の皆さん、パブリックコメント見たことありますか。ホームページを開いて、奥まで入らなきゃいけないですよ。

いや、パブリックコメントでも特にいろんな意見はありませんでしたと。ないですよ、よっぽどのがなければ。

だからこのパブリックコメントの周知方法とか、もう一個はプロポーザル。プロポーザルは前回いろいろあってから変えるということでは言われていますけども、パブリックコメント、これは本当に意味のあるパブリックコメントというふうに変えていただきたい。

いろんな意見を市民の人たちに周知し、その市民の皆さんが、市民の代表の我々に、これはあいよ、これはそうよというのがいっぱい聞けるような形で、パブリックコメントを。

ちょっと、ただホームページに載せました、だけではなくて、市報にも載せていらっしやるかもしれませんけど。市報にも載せてますかね。そうかもしれないけど、きちんとやっぱり聞いていただきたいと思いますけども、いかがでしょうか。

○議長（吉川里己君）

松尾企画部長

○松尾企画部長〔登壇〕

パブリックコメントですが、行政手続法第6章に定められている意見公募手続として、本市においても、武雄市市民意見公募手続実施要綱に基づき実施しております。

議員おっしゃるとおり、周知不足による、意見が少ないとか、そもそも関心のところが少ないという部分はあるかと思っております。

周知不足については今の周知方法だけではなく、いろんな手法で周知を図っていき、また、計画への関心についても、計画ごとに、世代ごとに対象が違うものもありますので、そのような人たちにこのパブリックコメントの声をいただけるような場所へ説明に行くなどの対策

を取っていきたいと思っています。

○議長（吉川里己君）

18 番牟田議員

○18 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ぜひそういうふうな周知を図っていただきたいと思います。

パブリックコメントがあんまりなかったというのを錦の御旗みたいな形で使われるというのは、非常に不本意でございます。ぜひそういう形でやっていただければと思います。

では、4 番、総合計画について。

5 番目の経過報告というのは、さっき豊村議員のときにも秋頃と言われましたよね。ですから、これはもう結構です。

4 番目の総合計画。

これも3月に言いましたように、各町ごとに、そしてこの後にいろいろ質問しますけども、そういうのもぜひ載せていただきたいというのを、次から説明します。

各町ごとというのは進んでいるのか。

例えば私が住んでいる若木町と北方町では、全然要望とか目標値が違いますよね。

ぜひそういうふうな、周辺部の各町でもつくっていただきたいというお願いを、意見を吸い上げて、要望を吸い上げてくれと。

朝日町は朝日町の目標値がある、希望がある。橘町は水害というので、また各町違いますので、一緒くたではなくて、各町ごとというのは、そういうのは進んでいるのかお伺いしたいと思います。

○議長（吉川里己君）

松尾企画部長

○松尾企画部長〔登壇〕

本市では総合計画ではなく、総合戦略という形で策定しております。

この策定といたしましては、議員おっしゃるとおり、町ごとにそれぞれ特徴があり、その地域ならではの課題や御意見も数多くあると思っております。

まだ各町ごとに御意見を聞く機会を設けておりませんが、今後そのような機会をつくって説明、また、御意見をいただく機会をつくりたいと思っております。

○議長（吉川里己君）

18 番牟田議員

○18 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ぜひそういう形でやっていただきたいと思います。

続きまして、政策策定の手順の最後になります。

これは、昔から言っている教科書採択について、どうなる。

今年は中学校の歴史教科書、地理、道徳の教科書の選定期です。

ですから、これはもう過去の議会でも、いつも私、取り上げていました。

どういう選択基準になっているのか、採択というふうには。これが物すごく違うんですね。

例えば今度新しく、歴史見ました。相変わらずですね。

豊臣秀吉が朝鮮に行ったときは、朝鮮への侵略と書いてあるんですね。モンゴルから元寇で攻めてきたときは、高麗と一緒に攻めてきた。もういろんな、ほかを言えば山ほどあるんですけども、いろんな表現が。

次、これですね。中学校指導要領、歴史分野。歴史分野の中で、——これ読んだらいけないんですよ。大切なところだけ。

我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てるとというのが、中学の歴史分野の要綱でございます。

これに本当に当てはまるような教科書を、ぜひ選んでいただきたい。選ばなきゃいけないんですよ、逆に。

さっき言いました。「教育とは、人間形成に作用する精神的な影響をいう」と。これが広辞苑に書いてある教育です。

さらに戻します。

この中学校の教科書の選定、どのような基準になっているのか。採択ですね。

前回との違いは何なのか。

前回まで聞いた分をちょっとおさらいしますね。これになります。

県の教育委員会が地区の協議会に任せる。地区の協議会は調査員、僕この調査員というのがよく分からないのですけれども、調査員にお任せし、その調査員が報告すると。この循環は、常にもう変わることがない。

以前、地区協議会の議事録を見せてくれと、見せられない秘密会だと。メンバーを教えてください、教えられないと。調査員とはどういう人をいうのか、教えられない。何人入れるのか、教えられない。

そういうのが前回までの教科書の採択基準でありました。県からののが、そのままずっと行ってしまおうと。

やっぱりですね、いろんな、さっき言ったように歴史教科書見ました。

歴史教科書の中で、例えば尖閣、3分の1ページしか載ってないですよ、尖閣に関しては。あと、竹島問題。竹島問題は地理には書いてない。尖閣もあんまり書いていない。歴史のときは3分の1ページぐらいしか書いてない。

今、私が言ったのは、代表的な分かりやすい例で言いました。

やっぱりそういうのを含めてですね。

戻しますね。もう一回言います。我が国の歴史に対する愛情を深めなきゃいけないんです

よ。国民としての自覚を育てる。そういうのをきちんと選んでいただきたい。

そして、その人たちの議事録を見て、納得して、ああこれで選んでくれたんだなということとやっていただきたいと思っておりますけれども、今回はどうなのかお伺いしたいと思います。

○議長（吉川里己君）

松尾教育長

○松尾教育長〔登壇〕

前回の教科用図書の採択基準、あるいは今回がどうなっているかというお尋ねでございますけれども、まずは教科用図書の共同採択という形で行っておりますけれども、前は2市4町、いわゆる杵西地区のエリアで採択をしておりました、共同採択ですね。今回は、藤津地区が新たに加わりまして、4市5町、杵西・藤津地区の共同採択地区ということで、エリアが変更されたということです。

それ以外の変更点は、前回とはございません。

○議長（吉川里己君）

18番牟田議員

○18番（牟田勝浩君）〔登壇〕

変更がないということは、まだこの辺は委員のメンバーが誰か、調査員とは何ぞやというところまでまだ公表できない段階にあるということで理解していいでしょうか。

でも、公表せんざいかんですよ、やっぱり。

思想的にどういう人になるというのが全く分からない。誰がどうやってその人を選んでいくというのが全く分からない。その人たちが教科書を選んでいる。

ああ、この人たちやったら、例えば思想が右に傾き過ぎている人みたいだよとか、左に傾いているみたいな人だよというのが、そのメンバーの中に入っているとやっぱり不安が残るんですけども、秘密会だとそれ以前に全く分からない。

やっぱりそのところは何とか是正して、きちんと報告しなきゃいけない。

前教育長さんの答弁の中には、それを公表したら教科書会社からのアピールがすごいんで、なかなかそれができないという答弁もありました。

でもね、我々も議会も、今度も何十億という議案を議決するんですね。みんな電話番号も、名前も公開しているわけですよ、今もかな。

だから、そういうことが理由でじゃなくて、やっぱりきちんと選んでほしいし、どういう人が選んでいるのかというのは、物すごくやっぱり関心があるところでございます。

ぜひそういうところに向けて新しい教科書を採択していただければと思います。

では、次に行きたいと思います。

次、農政について。

農政についてですけども、先ほど一番表紙のところ、棚田、田の維持。ここで言うのは、田の耕作継続困難問題。水田の継続がどうなるんだろうと。

今、作っている方がいらっしゃいます。その人が、もうちょっと調子悪いからこの田んぼ返すねって、もう体の調子悪かけん、この田んぼ返すねって。

返された人は作れないんですよ、なかなか。今までずっと農業もしたことない、よそにいた人。そういうところが、ここ数年で増えてきている。この先3年でも、急激にさらに増えることでしょう。

その中の対策の一環で、オーナー制というのをされていますけども、なかなか大変です。

これオーナー制のところですね。これは市長です。この前、来ていただきましてありがとうございます。

これは古賀珠理議員さんが率先して田んぼに入ってやっていただいています。

ちなみに、日本最古の水田というのはどこか知っていますか。日本最古の水田、知っていますか。佐賀県唐津市ですよ。菜畑遺跡が日本最古の水田の遺跡、3000年前、縄文時代。

田んぼというのは、本当に地域というか、日本人にとってもうマインドなんですね。

土地が個人のものになる、今まで権力者のものだったと。権力者のものだったのが、個人のものになる。

例えば723年の三世一身法というのがあります。そこから、開墾したらその土地はあなた個人のものですよとなって、個人所有が始まった。田んぼの個人所有が始まった。

その後、743年に墾田永年私財法ですよ。もう墾田したら、この土地は永久にあなたの土地ですと。

よその、外国としたら歴史が違うんですよ、その田んぼに対する歴史が。

執着って言っちゃいけない、もうさっき言ったようにDNAに染みついている。

あそこの田んぼは祖先の方々から受け継いできとうもの、なかなかやむっともできんし、売るともちょっとのうっていうとは、やっぱりそこなんですね。

よく、ちょっと愚か者のことをたわけ者って言わんですかね、このたわけ者がって。たわけ者の語源は、田んぼを分けるなんですよ。田んぼば分けるが、たわけ者なんですよ。

それぐらい日本人は田に関して物すごく執着、そして、さっき言ったようにDNAに染みついたと。

そこが今、大変大変厳しい危機にある。危機にある中で、どういうふうはこの田を維持するか。

今、作ってもらっている人が、もう作れなくなったからって、元の持ち主にどんどん返している。

あのおんちゃんも、もう70後半やけんが、あと二、三年すっぎ、作いきれんごとなあもの。作いきれんごとなったって、どんどん返ってくる。でも、返ったところは自分じゃ作

れない。じゃあ、代わりに集落営農を頼もうかって。集落営農もパンクですよ。どうすればいいのかわ。

この問題、さっき言いましたマスタープラン、スター戦略、ぜひこれも加えていただきたい。何とかこれの維持、田の維持。

先日、ちょっと政府の偉い人が来られました。小松市長さんも一緒に、意見交換会ということで質問があったりしましたね。

そのときに、農業関係者の人がその人に、こうやって田畑維持、大変なんですけど、どうすればいいですか、何か国からのありますかと聞いたときに、その政府の偉い人の答えは、高付加価値商品をつくりましょうと。例えばイチゴでも高いのをつくれれば、そこから農業収入を得られますよと。いろんなそういう高付加価値商品のことを。

我々が言っているのは、この田の維持なんです。田のことは全く言わんで高付加価値商品、そんなことじゃないんですよ。この田をどうするか。

田をそのままにしておくと、荒れ地になる。荒れ地になると害獣が増える。荒れ地になると、横でつくっている人がもうつくれなくなる。水回りとか、虫とか何かで作れなくなる。悪循環しかありません。

ぜひこの点をスター戦略、入れていただきたいんですけども、市長、いかがでしょうか。

そして、何かこういうふうな解決方法とか見いだせないかお伺いします。問題意識をですね。

○議長（吉川里己君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

田んぼやお米がDNAというのは、私も非常に共感します。やっぱり小麦ではなくて、お米は1房からたくさんの実ができると。それが私たち日本人の活力になってきたというところはあります。

今、地域において地域計画をつくっていただいています。これは本当に、それぞれの地域は苦勞をして、今つくっていただいているところです。

私も実際いろいろ聞きます。やっぱり10年後の姿なんていうのは分からない。もう2年後、3年後も分からないのに、10年後をつくるというのは、やっぱりなかなか難しいという話を聞いたりします。

しかし、やっぱりそれがあることで、国から法律でつくりなさいというふうになっているものですから、それをやっぱりつくることが次につながっていくということで、引き続きそこはよろしくお願ひしたいなと思います。

ただ、やっぱりその点について、じゃあ、それをつくってこの地域を維持していこうというときに、一つ、さらにやっぱり私はインセンティブとかも必要だと思うんですよ。

今、つくりなさいと言われていたけども、これをやることで、じゃあもっと前向きになるようなものというのが必要だと思いますので、その点については、ここはさらにもっと前向きに、元気になるような政策が必要じゃないかというのは、これは国にも要望していく必要はあると思っています。

それぐらい地域にとってスター戦略は一人一人が自分らしく生きる、暮らせるまちづくりというのを引き続き、根本の考え方としてはあるのですけれども、先ほど部長が答弁したように、やっぱり各町によってそれぞれ特徴があります。各町の特徴を生かしたまちづくりというところも併せて、今回しっかり示していかなければならないと。

人とその暮らしとまちがしっかりこれからも持続可能だよというふうに示していく必要はあると思っていますので、そういう中では当然、この田んぼを含めて中山間地の在り方についても含んでいく必要があるというふうに私は考えております。

なので、そのあたりを含めて、ぜひ戦略として、今後いろいろ御意見聞きながら策定に向けて進めていきたいと考えております。

○議長（吉川里己君）

18 番牟田議員

○18 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

本当に、市としてできるというのは、もう僅かなことだと思います。

でも、その僅かなことを、市長として国、県に働きかけ、県でもやっぱり同じことだと思いますけども、国に働きかけ、ぜひそういう動きを加速するためにも戦略に入れていただければと思います。

田は、本当に昔からの御先祖様から、その前から奇跡的なその子供への継承が続いての今だと思います。それが今、大きな転機を迎えていると思いますので、ぜひお願いしたいと思えますし、例えば市でできること。市でできることは何だろうかとも考えました。

小さいことですが、武雄市内のパン屋さん、ケーキ屋さん、武雄産の米粉を使えば、こいし補助をしますよとか、そういう小さいことからでもいいと思うんですよ。

今、ウクライナからの小麦が 500 万トン、国産でいうと、そのうちの 5% を使うだけで米が相当売れていくと。そういうようなことも考えられます。

できること、武雄で、例えば米粉の推進とかしたら、微々たるものかもしれませんが、武雄でできること、ぜひいろんなことを考えて戦略に入れていただければと思いますし、そして、次に言います、イノシシ駆除。これは害獣駆除なんですけども、モチベーションなんです、田をつくるのは。

せっかくつくってきたのが、もう最後の最後でイノシシでやられる、害獣でやられる。もう、モチベーションだだ下がりですよ。

そういう中で、もうよか、もうこの田んなか返すけんって。あんたんところ、いつもイノ

シシ入ってくんもん、もうちょっとこれはしいえんよ、返すけんって。

もうそういうので、少しでも武雄の田の維持のために、このイノシシ駆除に力を入れていただければと思います。

これは知っている方は知っている、知らない方は当然知らないという、モンスターウルフです。モンスターウルフ、これ目がちかちかします。センサーで、何メートル以内にイノシシが入ってきたらほえます、オオカミの声で。さらに、20種類の音源があるので、20種類の音源で追い払えます。

前からネットでは見てたんですけども、たまたま武雄河川事務所さんがこれを購入しているんですよ。武雄河川事務所、松浦川沿いにあります。

私、見に行きました。

2匹いるんだよ、2匹。2匹、こいつがいます。

お堅い武雄河川事務所さんが、よくこれ2匹も買ったなって思うんですけども、これ、リース料で1万円だそうです。何年したらもう、その人のものになるということらしいんですけども。

じゃあ効果はあるんですかって聞いたら、私、見に行きましたからあれですけども、近くにセンサーカメラを置いてるんですね、どのくらい効果があるかというのを見るために。聞いたら、効果があるって言うじゃないですか。効きますよと。

近くの農作業の人、伊万里の議長さんがそのあたりですから、やっぱり効果あるばいと。

やっぱりこういうのを使って、そしていろんなことを補助して、田とか畑のいろんなのを耕作するモチベーションが下がらないような形で。

こういうモンスターウルフに限りません。いろんなのが最近進んでいます。ぜひこういうのに取り組んでいただきたいんですけども、いかがでしょうか。

○議長（吉川里己君）

佐々木営業部理事

○佐々木営業部理事〔登壇〕

議員から御紹介いただきましたモンスターウルフでございますが、議員からの提案、それと同じように、武雄河川事務所のほうからも情報提供をいただいておりますので、現場のほうへ行っております。

議員からありましたように、大音量が出るとか、目が光るとかという効果で、結構効果があるというふうに伺っておりますので、そういったところを情報収集をして検討をしていきたいと思っておりますし、併せて駆除のほうも頑張ってやっていきたいと思っております。

○議長（吉川里己君）

18番牟田議員

○18番（牟田勝浩君）〔登壇〕

これに限らず、いろんなやつを試していただきたい。

駆除と言いましたけれども、北海道じゃなかった、秋田だったかな、猟友会がクマの駆除を放棄しましたよね。もうクマの駆除やらないって。

クマが出たから猟友会出てください、行かないって。

その理由は何ですか。1日8,800円でクマと立ち向かえるかと。アメリカの特殊部隊と1対1で対峙するよりも、もっと怖いんだぞと。そういうので、この金額じゃあやってられない、命をかけてというのがありました。

駆除にしてもやっぱりきちんと猟友会と話し合って、猟友会とか罨、そういうふうな金額をアップさせてもいいですから、ぜひそういう駆除のほうを力を置いていただきたいし、このモンスターウルフに限りません。いろんな方策で田を継続するモチベーションを上げていただければと思います。よろしくお願いします。

では、次に移ります。

3番目、空き家。

空き家というのは、人口減が進んでいる中、この20年で空き家の数は倍になっているらしいですね。日本で900万戸が空き家になっている。

武雄市も、ちょっと数字をいただいたんですけども、1,000戸が空き家だと。

この空き家対策、人口減対策と一緒に、本当大変だと思います。

これ、もう一個後で質問するんですけども、日本の法律とか条例は、あと、構え方ですけども、日本人は性善説に成り立っているんですね。家を出るときも鍵を閉めない。消防団の格納庫も鍵を閉めない。神社も鍵を閉めない。最近閉めてるところ多いですけども、閉めない。性善説で成り立っている。

でも、異文化の人たちが来たら、やっぱりそういうのは通じなくなってしまう。

昨日だったかな、たまたまX（旧ツイッター）見ていましたら、世良公則さん、あのツイストのが書いていたんですけど、日本に来る就業労働者の外国の方の1割、1万2,000人がもう行方不明になっているらしいです。世良さんのX（旧ツイッター）に書いてあったんですね。

これは都会じゃなくて、地方に多いんですね。

文化が違っていると、やっぱり性善説というのが成り立たなくなる場合がありますので、やっぱり空き家が多いと、やっぱりそういうところがまた狙われやすい。

今度、空き家特措法だったかな、変わって、きちんと管理しないと固定資産税が6倍になるということですよね。

だから、そういう中でこの空き家対策、どのように考えているのか、今後やるのかというのを伺いたしたいと思います。

○議長（吉川里己君）

弦巻まちづくり部理事

○弦巻まちづくり部理事〔登壇〕

まず、今後、空き家のほうは確実に増加をしていくというふうに認識しております。

現在の取組につきましては、空き家は、基本的にその所有者または相続人が管理をすることになりますが、そのため、管理が不十分な場合は周辺の住民の方とかからの連絡により、所有者の方へ連絡を取ってもらったり、また、相続人等が不明な場合に関しては市で調査を行い、文書にて改善を行っているところではございます。

また、空き家のリノベーション補助金とか、空き家バンクの空き家の利用促進ですね、そのほか各補助金等により解体の促進を行っているところでございます。

今後につきましては、当然空き家が増えていくわけですが、空き家になれば、防犯上、管理上、衛生上、そういった問題も今後発生すると思います。

今後、持続的な予防対応策、効果的なものを検討していかなければならないというふうに認識しているところでございます。

○議長（吉川里己君）

18 番牟田議員

○18 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

空き家という部分で、今言われました。

空家等対策推進法ということで、国は 60 億の予算をつけていただいています。

でも、これじゃあ足りんですよ。

やっぱりそういうふうな空き家対策というのは、これから先、本当に、さっきの田と一緒に大きな問題になってきます。これもやっぱりスター戦略の中に入れるべきものだと思います。

そういうふうに、空き家対策なんですけども、まず、調査せんぎ駄目ですね。

令和 2 年だったですかね、調査して 900 件ありますということが出ていますよね。

その後、調査していないですよ。だから、それを調査して、さらに、何で売れないのか、何でこうなっているのかというところまで調べて対策を打つと。これが 1 点目のやってほしいこと。

2 点目は、武雄市にお結び課ってありますよね。お結び課さん、よくホームページじゃないや、いろいろ見ると頑張っている感じがしますよね。

空き家バンク、武雄市の空き家対策、空き家バンクも同様な動きをしたほうがいいんじゃないか。

ただ載せていて向こうから来るのを待つんじゃない。マッチングアプリじゃないですけども、こういう空き家がほしがっている。そういうふうに、市のお結び課みたいな感じで、この空き家バンク、空き家マッチングアプリじゃないですけども、そういうのをやったほうが

いいんじゃないでしょうか。これが2点目。

3点目は、やっぱり国ですよ。

もう一番は解体費用ですよ。解体費用が上限幾らとかありますけども、解体費用、毎年、毎年、どんどん、どんどん増えていっている。もう解体したくてもできないですもん。

解体したら税金高くなりますよ。

でもね、解体費のほうをはるかに大きい。平地にしたら税金かかりますからねって、もうそんなもんよりも、全然解体費のほうが高いですから。

だから解体費の補助とか、そういう平地にした場合の税金の免除、そういうのを国がちゃんとやっていただけるように、ぜひ市長はお願いしていただきたい。

特に今言った2番のところ、お結び課みたいな感じで、市が持っている空き家バンクのところもマッチングさせるという努力もしていただければということ提言して、次に移りたいと思います。よろしく御検討をお願いいたします。

次です。防災について。

防災についてですけども、1番目、これは9月議会に質問しました。

9月議会に質問して、さっき言った性善説ばかりじゃあ、もう今は駄目だと。開けばなしだと入れるよと、市の財産取られるよと。だから、例えば消防の格納庫、公民館の入口に、こういうふうな鍵じゃなくて、暗証番号3桁とか4桁入れて、これを開ければ鍵が出てくる、車の鍵が出てくるというような形でしないといけないんじゃないですかということ、9月に申し入れました。

そして、現時点でどうなっているかという、佐賀市と小城市で、全部で49台、発電機が盗まれた。消防の格納庫から。

そして、全国のやつを調べると、金属が高くなっているから、真ちゅう製の筒先をどんどん持って行かれている。勝手に入られて、ホースの真ちゅう製、そして特注のジョイント。

これ、本当に何かあった場合に対応できんですよね。

いや、鍵どんつけんでって、今までどおりでよかさいじゃあもう通用しないです。さっき言った性善説では通用しないような感じになってきた。

昔は家の鍵も閉めないで出てたということも、最近閉めるようになりました。

だから、やっぱりこういうの、取扱いも、きちんと市の予算を組んでやらなきゃいけないんじゃないかというのが一つ。

2つ目、さっき言いました戸別受信機、ちょっと議会で云々でなかなか説明がなかったけど、その中の一つで、聞き直しができるのか。

当初では、電話かけたら聞き直しできますということで説明を受けておりました。

ところが、聞くと、市の放送しか聞かれないんですね。

例えば地区から、市の放送、六角川があふれます、高橋排水機場をストップさせる、そう

いう放送は入っています。でも、松浦川水系は地元の消防団、地元の公民館が、松浦川のこのところは通行止めになっていますって放送しても、直で聞いてなきゃ聞き直しできない。

この聞き直し機能、非常に重要だと思います。これが抜けている。

聞いたら、ちょっとの金額でこれ載せられたけど、結局つけなかったということなんですけども、やっぱりそこら辺のところをきちんと、地域の情報も聞けるような形で持っていてももらいたいというのが2点目。

3点目は、「たけぼう」。

この前、Jアラートが鳴りましたよね。Jアラート鳴って、すぐ「たけぼう」を開いたんですけども、「たけぼう」は全く反応していない。Jアラートと連動すべきじゃないでしょうか。

北朝鮮ミサイル撃ちました、Jアラートが鳴った。九州に向かっています、Jアラートが鳴った。「たけぼう」は全く無反応。これじゃあいかんと思います。

1、2、3、答弁をお願いします。簡単でいいです。

○議長（吉川里己君）

黒尾総務部理事

○黒尾総務部理事〔登壇〕

まず、1番目ですけれども、キーボックスの購入の件ですけれども、格納庫の施錠徹底に向け、キーボックス購入に対する負担の方法を検討し、早急に進めてまいりたいと思います。

2つ目ですけれども、戸別受信機の件ですけれども、各町公民館から発信するまちの放送に関しては、地域のコミュニティー情報やお悔やみ情報などの発信に活用されております。

今後、各町公民館の意見も取り入れながら、町からの放送についても音声案内サービスの利用ができるよう、検討してまいりたいと思っております。

3番目につきましては、武雄市防災アプリ「たけぼう」についてでございますけれども、実はこの間の、4月17日の豊後水道を震源地とする地震におきましては、武雄市では震度1でございました。

今までの「たけぼう」については震度2から通知する設定となっておりますので、今回、市民の方からとか、議員の質問と同様の問合せをいただいておりますので、「たけぼう」については、震度1から通知される設定に見直したところでございます。

○議長（吉川里己君）

18番牟田議員

○18番（牟田勝浩君）〔登壇〕

1番は、やっていただくということで。

2番は、各町の意見を伺いながら、つけるかどうかということ判断するということなんですけれども、各町で、んにゃ、つけんでよかばいという人はおらんですよ、多分。逆に、

聞き直し、うちの町はせんでよかというところはないと思います。そういうことを言う人は、もう住みいさんなって私は言いたい。

きちんとやっぱり地域の情報を流してくれというところであると思いますので、ぜひやっていただきたいと思います。

逆に、そういう反対意見があったら教えてください。

次、「たけぼう」に関してはJアラートの連携ですから、ぜひJアラートの連携でやっていただければと思います。

では、防災についての1、2、3。

次、防災についての1、2、3、4。治水対策。

治水対策、今までどんどんいろんなことを言ってきましたが、今回、保水性アスファルトの採用、活用ということでお伺いします。

さっき質問、どんどん坂道を水が下ってくるということを、吉原議員さんおっしゃっていましたね。

今までのアスファルト、これ、右の写真載せているんですけど、これはどんどん、どんどん、ただ、アスファルト、水が来ますよね。

もう一つ、浸透性アスファルトというのがあるんですよ。そのまま下に水が落ちると、そういうアスファルトもあります。

今回、私が言うのは、保水性アスファルト。雨が降ると、一時、この中に水をためていて、徐々に下に浸透させる。もしくは、そのままちょっと中で保水しているというのがあります。

こういう中で、2回激甚災害を受けてやっている武雄市としては、これからの工事、これからの公共事業で新しく造るところには、この保水性アスファルト。

各町公民館にミニダムというのがありますよね。ミニダムもいいでしょう。

でも、こうやって道路にするというのはもう面積が違います。保水力が違います。

1万トン、2万トン、3万トン、10万トン、それをどんどん広げることによって、今の雨は短期集中型ですから、このアスファルトに保水させるというのがいい手だてだと思います。

国交省の方がおっしゃいました。国は逃げない、共に汗をかきましょう。今後も連絡を密にしましょうと。

そういう中で、例えばこれは施工が1割高かった、2割高かった。ヒートアイランド現象対策にもなる。それで1割高くてもいいじゃないですか。保水力がある。これで何十万トン、少しして何万トンの水がためられるとなったら、2割ぐらい高くてもいいじゃないですか。合わせて3割高くてもいいと思います。その分、国交省さん、ちかっと見てねと。

そういうふうなどが、やっぱり治水の小さな積み重ねだと思います。

今あるアスファルトを削ってじゃないです。これから先の、新しくするときにはこういうのを踏まえてやっていく。そういうことが肝要だと思いますけども、いかがでしょうか。

○議長（吉川里己君）

庭木まちづくり部長

○庭木まちづくり部長〔登壇〕

雨水を一時的にためて浸水被害の軽減を図ることは、今後武雄市が取り組む重要な治水対策であります。

議員御提案の保水性アスファルトも、様々なところで取組ができる有効な活用法だと考えております。

今後、公共施設や道路などにおいて、採用に向けて場所の選定などを検討してまいりたいと存じます。

○議長（吉川里己君）

18 番牟田議員

○18 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

市長、同様の質問ですけれども、いかがでしょうか。

○議長（吉川里己君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

小さなことを積み重ねて治水につなげていくというのは、まさに流域治水の考え方ですので、先ほどの部長と同様、私も今後、整備をするところにはこういった保水性アスファルトを、積極的に活用を考えていきたいと思っております。

○議長（吉川里己君）

18 番牟田議員

○18 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ありがとうございます。

これから先、いっぱい公共事業があります。文化会館もそうです。例えば大学もお願いするかもしれません。体育館はもうできちゃったからあれですけれども、いろんなところで活用できると思います。ぜひ採用していただければと思います。

では、最後の質問の、観光のところであります。

観光はですね、台湾、この前地震がありました。

観光協会は今、台湾に向けてインスタグラム、フェイスブックで直接、武雄市観光協会です、武雄をアピールしています。

これはちょっと動画を写メ撮ったんですけども。この台湾、ほかはやっていないですね。中国本土とかほかのところはやっていません。台湾オンリーです。台湾オンリーでやっています。

今、現時点で幾つかの動画を発信しました。動画の視聴率、視聴者数は 100 万を超えまし

た。いいねも何十万やったかな、ついていきます。台湾の人口を考えると、日本で300万いいね、400万いいねがついたのと同様な形になります。

そういうことを考えると、やっぱり台湾というところは親日的なところですから、入りやすいんじゃないかと。

現実に、武雄のある施設が、観光協会がこうやって去年からやっていますけれども、今年近辺になって、もううちの店では台湾からのお客さんが3割超えるようになりましたと。やっぱりPRが効いているねということ、そこの社長から言われました。

そういう中で、市としてやっぱり台湾へのアプローチはどのように考えていらっしゃるのか。

そして、2つ目、食の開発。

これもさっき吉原議員さんが、降ろさんぎいかん、通過点じゃ駄目であると、新幹線の。やっぱり僕、何回も言っているのですけども、食ですよ。

いつか議会の視察で栃木に行ったときも、途中で乗換えがあったときは、宇都宮でギョーザを食べました。ちょうど昼どきの乗換えだったので。

だからそういうふうに、やっぱり降ろすというのは、食が本当に大切だと思います。

ちょっと何か名物あったら、佐世保線への乗換え、リレーかもめへの乗換え、そういうときにちょっと時間あったら、1本ずらして、武雄のこい有名ばい、食に行こうかというような食の開発を、特産品協会というのはいなくなりましたけども、やっぱり再度考え直すべきだと。

これは、ちゃんぽんサミットですね。北方で行われた、12年に、ちゃんぽんサミット。やっぱり、ちゃんぽんもいいと思います。

隣でやった、これは、みそカツです。これもよかったです。

やっぱりそういうふうな食の開発、補助金を少し出しても、もしくはコンクールをしても食を開発して、武雄に降ろさせる、武雄にお金を落としていただく、そういうのをやっていただいたほうがいいと思いますけども、この1番、2番、いかがでしょうか。

○議長（吉川里己君）

山崎営業部長

○山崎営業部長〔登壇〕

まず最初の台湾市場についてでありますけれども、佐賀空港、福岡空港に直接便が運行している状況にあるというところからも、重要な市場であるというふうに考えております。

現時点で、トップセールスというところも現時点では予定をされておきませんが、トップ自ら現地に出向き、武雄の魅力、温泉、焼き物、食、文化、この辺を直接売り込むことが重要なことであるというふうに考えておりますので、今後状況を見ながら、台湾のトップセールスについては判断していきたいというふうに考えます。

それから、食についてでありますけれども、食につきましては、観光の付加価値を高める重要なコンテンツであるというふうに考えております。

現在もいろいろ、先ほど紹介ありました取組がなされているところではありますけれども、新たな食の開発、今あるものの磨き上げ、観光誘客のための積極的な取組、事業者等の支援につきましては、今後も行っていきたいというふうに思っております。

また、食の提供者、生産者だけでなく、行政も含めた関係者が、観光客の方に近い視点で食に関する調査等を行い、食を観光につなげていきたいというふうに考えております。

○議長（吉川里己君）

18 番 牟田議員

○18 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ぜひ取組をお願いします。

いろんな政策言ってこられましたけども、一にも二にも、ちょっと予算をつけていただけるといのが肝要だと思います。

ぜひつくっていただきたいし、質問の中で言いました農業政策、ぜひマスタープランに載せていただきたい。

そして、一番言いたいのは、少しでも治水に役立てる、こういうふうな政策を行っていたければと思います。

質問を終わります。

○議長（吉川里己君）

以上で 18 番 牟田議員の質問を終了させていただきます。

以上で本日の日程は全て終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。

散 会 14時19分